（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	古堅　誠	所　属	琉球大学医学部附属病院　第一内科	職　名	講師

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.20	・内科学会専門研修プラグラムにおいて、指導医として専攻医の教育に従事する。 ・肺癌診療への理解度や関心を高めるため、学生や研修医に対して、カンファレンスや勉強会、抄読会などをおこなう。	0.20	・内科学会専門研修プログラムにおいて、指導医として専攻医の症例登録の指導をおこなった。 ・カンファレンスや抄読会を通して、学生や研修医に対して、肺癌の標準治療や最新トピックスなどの情報提供をおこなった。
研究	0.20	・肺癌診療に関する他施設共同臨床試験に積極的に参加する。 ・呼吸器/肺腫瘍領域における学会発表、論文投稿。 ・製薬会社より肺癌研究に関する奨学寄付金取得に努める。	0.20	・多施設共同臨床試験に積極的に参加した。複数の倫理審査新規承認を得た。 ・症例報告のCorresponding authorとして、論文作成指導をおこなった。肺腫瘍領域の貴重な症例についての学会発表を行った。 ・製薬会社より奨学寄付金を取得し、研究の活性化に従事した。
社会貢献	0.10	・九州肺癌研究機構（LOGiK）プロトコール委員会への参加。 ・肺がん診療に関する講演会開催に携わり、沖縄県内の肺がん診療向上に努める。	0.10	・九州肺癌研究機構（LOGiK）プロトコール委員会に参加し、九州地区の肺癌研究向上に従事した。 ・薬剤師を対象とした講演会や市民公開講座で講演発表をおこない、県内の肺癌診療向上に従事した。
管理運営	0.10	・院内レジメン医員会などの癌関連院内委員会への出席。 ・外来医長として、外来診療で生じた諸問題に対応する。	0.10	・肺癌新規治療についての院内レジメン登録をおこなった。また、院内の各種委員会に参加し、院内業務の改善に従事した。 ・外来医長として外来診療の諸問題に対応し、スムーズな診療継続に従事した。
診療	0.40	・肺腫瘍外来や肺腫瘍セカンドオピニオン外来、外来化学療法を担当し、受け持ち患者の適正な診療に従事する。 ・院内キャンサーボードへの参加/症例提示を行い、問題点のある症例の適正診療に努める。	0.40	・肺腫瘍外来や肺腫瘍セカンドオピニオン外来、外来化学療法を担当した。新規治療導入、診療ガイドラインの変更に合わせ、薬物の適正使用に務めた。 ・院内キャンサーボードへ積極的に参加し、問題症例の適正診療に対応した。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	宮城一也	所　属	医学部医学科	職　名	講師

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.00	●病棟実習において、活発に意見を述べることができる環境を作る ●可能な限り実技を見学させ、興味がわくような指導方法を構築する。 またクリニカルクラークシップの学生には積極的に診療に加われるよう配慮する ●講義において学生がより興味を持てるよう常に内容を更新する ●研修医の学会発表を指導する。 ●呼吸器に興味のある若手医師、学生に対するセミナーを開催する	0.30	●病棟実習において学生は積極的に意見を述べる重要性を強調した。 患者さんにも積極的にコミュニケーションをとるよう促すことができた。 ●手技に関しても可能な限り研修医に指導し、実施させた。シミュレーションセンターでも 実技のトレーニングを行った ●CDを用いて呼吸音を聞きながら講義も行った。またシミュレーション センターでの講習会に指導者としても参加した。 ●研修医2年目の医師の学会発表を指導した
研究	0.00	●学会発表を積極的に行う。 ●症例報告あるいは論文は最低1編は投稿する。 ●常に基礎研究と臨床の接点を模索する	0.20	●研修医や後期研修医に指導し学会発表を経験させた。 ●後輩医師を指導し学会誌に投稿、採択された。 ●理学療法士の修士課程に指導し研究計画書を作成した
社会貢献	0.00	●学外の研究会に積極的に参加する。	0.05	学外の研究会に出席した
管理運営	0.00	学内の運営委員会へ出席し、必要であれば積極的に意見を述べる。また医局員にも周知徹底する。（感染対策委員、安全管理委員など）。また病院移転に関する会議にも積極的に参加しよりよい病院にしていくよう提案など行っていく。	0.15	複数の委員会に出席し医局員に周知、徹底した。 病院機能評価の準備も行った
診療	0.00	●外来診療において待ち時間を短縮するよう留意する。逆紹介も積極的に行う。 ●患者様からの声に対し可能な限り対応していく。（呼び出し名をどうするかなど） ●他院からの紹介に対し真摯に対応し、信頼関係を築いていく。 ●病棟診療においてエビデンスに基づいた診療を行うことはもちろんのこ	0.30	●積極的に逆紹介を行うことで患者の数が減り、待ち時間減少、診療の質の向上を図れた。 ●病棟でも研修医、内科専攻医を指導しながらより質の高い医療の提供を実践することができた。また病棟医長として師長と連携してベッドコントロールなどを行い病棟業務が円滑に運営できるようにした。 ●気管支鏡検査にも力をいれ特殊検査の件数も増やすよう努力した
計	0.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	伊良波　淳	所　属	附属病院　第一内科	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.15	学生講義、学生実習	0.15	学生講義、学生実習
研究	0.15	炎症性腸疾患における臨床的研究	0.05	炎症性腸疾患における臨床的研究
社会貢献	0.15	炎症性腸疾患における学外講義、患者会の実施	0.15	炎症性腸疾患における学外講義、患者会の実施
管理運営	0.05	血液浄化療法部運営委員	0.05	血液浄化療法部運営委員
診療	0.50	内視鏡診療、病棟診療、外来診療およびNST診療	0.60	内視鏡診療、病棟診療、外来診療およびNST診療
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	屋比久　浩市	所　属	医学部附属病院　第二内科	職　名	講師

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.20	学生向け教育・指導を徹底する。研修医の指導[問診・身体所見のとり方、疾患鑑別、治療、他、(内分泌関連)採血等のスキル]。大学院生や研究初心者の指導[技術的な指導の他、研究の進め方、解析方法等]を行う。	0.20	研修医向け講義1コマ・医学生向け講義3コマ・看護師研修向け講義1コマ・医学部4年次ポリクリ向けレクチャーを2週毎に行った。TBL・OSCE・BPEを担当した。CBT問題作成の全国ブラッシュアップを担当した。第二内科を回る研修医の研修状況チェック係を担当した。
研究	0.20	代謝内分泌、特に生活習慣病関連の研究および論文化を積極的に進める。研究費取得を目指す。	0.20	研究結果をまとめ論文を作成中である。
社会貢献	0.20	研究結果の論文化による公表、および国内外学会での発表、講演発表、研究結果の臨床現場への還元(患者さんへの生活指導および治療)	0.20	自身のこれまでの研究成果を、該当する患者さんへ積極的に指導および治療にも適用している。
管理運営	0.20	院内・学内の各種委員会における職責を充分に全うする。	0.20	共通研修企画運営委員・薬事委員・医療材料検討委員・外来患者付添い実習指導医・機能画像診断センター経営管理委員を担当した。
診療	0.20	生活習慣病(糖尿病、高血圧症、脂質異常症等)患者の治療において、ガイドラインの数値目標に近づけるようにする。内分泌疾患患者においては、適切な検査、診断、治療法に則り診療を行う。	0.20	患者さんとのコミュニケーションはもとより、ガイドラインに則った適切な生活指導、検査、診断、治療計画を立てることができた。ただし、全ての患者さんで十分な治療目標に達したわけではなく、また、個々のコンプライアンスやアドヒアランスを考慮した診療の必要を感じている。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）						
名　前	池間　朋己		所　属	医学部　医学科	職　名	講師
領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定		業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果	
教育・学生支援	0.20	学生系統講義（代謝学　内分泌学）・試験問題作成を作成する。CBT・総合試験問題の作成を行う。病棟実習学生へ指導を行う。		0.20	年度目標を達成できた。	
研究	0.10	論文作成を行う。糖尿病学会・内分泌学会・内科学会で後輩医師が発表するスライドの修正・確認を行う。		0.10	論文作成はできなかった。学会発表の修正・確認は目標を達成できた。	
社会貢献	0.10	小児糖尿病サマーキャンプ運営に携わる。沖縄県難病相談支援センターにおいて下垂体疾患の患者さんの相談にのる。		0.10	小児糖尿病サマーキャンプは中止のため目標を達成できなかった。難病支援センターの相談は2019/12に行ったので目標を達成できた。	
管理運営	0.10	病棟医長・リスクマネージャーとして9階西病棟の管理・運営を行う。院内の委員会への参加。		0.10	年度目標を達成できた。リスクマネージャー・DPC委員会・保険診療委員会へ参加した。	
診療	0.50	火・水の外来診療を行う。他診療科入院患者の血糖管理を行う。カンファレンスにて入院患者に関して後輩医師への助言を行い、患者の診療方針の決定を行う。		0.50	年度目標を達成できた。	
計	1.00			1.00		
※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）				☐ 学外公表に同意しない。	☐ 学内外公表に同意しない。	

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	中山　良朗	所　属	第二内科	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.20	学生の実習、講義、研修医に丁寧にわかりやすく指導する。 楽しく仕事している姿をみせる。	0.20	概ね目標通りに実施できたと思う。
研究	0.45	学位論文を仕上げて、年度内に確実に雑誌のアクセプトを受ける。	0.40	研究成果の面でまだ不十分であり、効率よく集中してさらに励む必要がある。
社会貢献	0.05	学会発表、講演会、小児サマーキャンプ、糖尿病週間など積極的に取り組む。	0.05	学会発表はできているが、講演会などの啓発活動は不十分。
管理運営	0.05	院内の各種委員会における職務を全うする。	0.05	目標通りにできている。
診療	0.25	外来患者、入院患者を一例一例丁寧に掘り下げて診る。	0.30	概ね目標通りに実施できたと思う。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	石田　明夫	所　属	医学部附属病院	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.25	●系統講義：web classで学生に予め課題を与え、自己学習をサポートする。これまでの独自アンケート結果を参考に講義のブラッシュアップを図る。 ●臨床研究実習：学生、医員を含めた医局全体で研究マインドを持って興味を持って持続的な研究ができる雰囲気を醸成する。 ●臨床実習：ポートフォリオの活用し、学生の課題を共有して一緒に解決する手段を探る。	0.25	●系統講義でwebclassを活用して事前学習を促した。半数近くの学生が事前学習を行い、アンケートでも好評を得た。●ポリクリおよびクリクラ学生の最終カンファレンスを担当し、学生間の質疑応答を活発にさせ、自己学習意欲を高めるように指導した。●博士・修士大学院生の講義を担当し、研究テーマの設定法や研究の進め方などを指導した。●M3学生（3名）の臨床研究を指導した。
研究	0.30	●新たな臨床研究を準備・開始する。 ●多施設・国際共同研究結果をまとめ国内・国際学会（欧州心臓病学会・日本循環器学会・日本高血圧学会等）で発表する。 ●疫学研究成果を学会報告・国際学術誌で発表し、外部資金獲得に努める。	0.30	●ハワイ大学・琉球大学・名桜大学の国際共同研究で、ハワイに移住したウチナーンチュの健康調査を開始した。●京都大学・高知大学・琉球大学・チェンデラワシ大学による国際協同研究の成果を日本循環器学会・ESC Asiaで発表した。●原著論文を筆頭著者として発表した(J. Hypertens)。●大学院生・医局員6名の研究・論文作成を指導し、論文を投稿している。
社会貢献	0.10	●看護学校（名桜大学・沖縄看護専門学校）の学生講義、看護士特定行為研修実習講義を担当する。 ●他施設の倫理委員会メンバーを担当する。 ●研究会等で研究成果を発表し、実地医療での臨床応用を促進する。 ●国際誌の査読を担当する。	0.10	●名桜大学・沖縄看護学校専門学校の学生講義、看護師特定行為研修実習講義を行った。 ●他施設の倫理委員会の倫理委員としての役割を担った。
管理運営	0.10	●各種委員会のメンバーとしての役割を果たす。	0.10	●医療適正化WG・医療材料検討委員会・医学教育連絡係、等の委員として役割を果たした
診療	0.25	●動脈硬化関連疾患の専門診療を外来・病棟で実践する。 ●地域一般病院外来で専門診療を担当する。	0.25	●毎日朝夕の病棟ラウンドを行い、学生・研修医・医員の指導を行った。 ●専門外来を継続した。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	池宮城　秀一	所　属	大学院医学研究科　循環器・腎臓・神経内科学	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.20	系統講義、TBL、臨床実習を担当し、学生が循環器の基本を取得できるように支援する。病棟実習生と初期及び後期研修医のチューターとして、カルテ記載やプレゼンテーション能力などの診療スキルが向上するよう支援する。	0.15	系統講義（胸部救急、肺循環）、TBL、臨床実習を担当し、学生が基本的知識を取得できるよう支援した。実際の症例やシュミレーターを用いて、病棟実習生が心電図、聴診の基本を取得できるように支援した。毎日の回診で担当症例のディスカッションを行い、病棟実習生や初期研修医の発表能力が向上するよう支援した。
研究	0.20	ABIと左室肥大の関係、脂質とレオロジーの関係についての論文作成をすすめる。血管モデルを用いたステントの挙動に関しての実験をさらにすすめる。肺高血圧に関しての臨床研究に取り組む。科研費などの研究活動資金獲得に取り組む。	0.15	ABIと左室肥大の関係に関しての論文を作成し、投稿中である。血管モデルを用いたステント実験の結果を国内学会及び国際学会で発表した。研究活動資金獲得のために科研費（基盤研究C）に申請した。
社会貢献	0.10	講演会や研究会に参加し、肺高血圧症を含めた循環器疾患の知識普及に努め、生活習慣の修正や治療法への理解を促し、臓器障害の発症・進展予防を目指す。	0.10	肺高血圧症を含めた循環器疾患の知識の普及のために、研究会で講演、座長、症例発表の役割を果たした。
管理運営	0.10	病棟医長として第三内科の診療体制の合理化及び円滑化に取り組む。また、循環器グループの診療体制の合理化及び円滑化にも取り組む。リスクマネージャー、医療機器安全管理委員会、保険診療・DPC委員会、新病院病棟部門ワーキンググループ、救急部運営委員会、医療機器安全管理委員会、キャンサーボード運営委員会、手術部運営委員会、放射線部運営委員会の委員として病院の運営に関わる。	0.20	病棟医長、リスクマネージャーとして第三内科の診療体制の合理化及び円滑化に取り組んだ。また、循環器グループの診療体制の合理化及び円滑化にも取り組んだ。医療機器安全管理委員会、保険診療・DPC委員会、新病院病棟部門ワーキンググループ、救急部運営委員会、医療機器安全管理委員会、キャンサーボード運営委員会、手術部運営委員会、放射線部運営委員会の委員として病院の運営に関わった。
診療	0.40	循環器疾患を中心に外来診療を行い、朝夕の病棟回診を通して、入院主治医への助言を行う。経皮的冠動脈ステント留置術、バルーン肺動脈拡張術、経皮的大動脈弁留置術などのカテーテル治療を行う。	0.40	毎日の回診で担当症例のディスカッションを行い、必要に応じて入院主治医への助言を行い日常診療を支援した。カテーテル治療（経皮的冠動脈ステント留置術、バルーン肺動脈拡張術、経皮的大動脈弁留置術）を担当した。循環器疾患患者の主治医として、外来診療を担当した。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	崎間洋邦	所　属	第三内科	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	①M2講義（脳血管障害），②M5，M6のポリクリ、クリクラでのベッドサイドでの神経診察指導，	0.10	①M2講義（脳血管障害、脳神経超音波検査）担当を行った。 ②M5、M6の神経診察指導をベッドサイドで夕回診時に行った。
研究	0.20	①後期研修医および医員の論文，症例報告作成支援，②おきなわ脳卒中地域連携事業および沖縄県のDPCデータ解析，公表．③臨床研究を行い学会発表・論文作成を進める．	0.20	①後期研修医および医員に計4回、学会での症例発表指導を行った。医員の1名に論文作成指導を行い査読のある和雑誌に1編の症例報告を受理された。 ②おきなわ脳卒中地域連携事業データ解析および平成30年度DPCデータ解析結果を脳卒中地域連携委員会総会で発表した。
社会貢献	0.10	①おきなわ脳卒中地域連携事業の推進，②臨床研究から得られた知見を広めていく．③脳卒中協会沖縄県支部として市民への脳卒中予防啓発活動を進めていく．	0.20	①②おきなわ脳卒中地域連携事業で県内の状況を連携パス総会で報告し、沖縄県では若中年男性脳出血対策、特に血圧対策が重要であることを確認した。③①および②の結果を踏まえ、おきなわ脳卒中地域連携委員会で8月に記者発表を行い県内2紙に掲載された。 その他、和文学術誌の査読依頼2件に対応した。
管理運営	0.20	①外来医長業務，②診療報酬委員会等各種委員会への参加および医局員への周知，③第三内科，神経グループのグループ長としてのマネージメント．	0.40	①②7月から医局長となり、医局長業務および各種委員会の業務を滞りなく行った。③神経グループの若手医員の指導を行い、2名を国内の専門機関に留学として派遣した。
診療	0.20	①朝夕の病棟神経グループ入院症例の回診，②外来診療業務， 神経疾患コンサルト（救急含む）対応，	0.10	①夕の病棟回診を滞りなく行い、神経グループ患者のマネージメントを行った。 ②コンサルト対応は若手医師と共に行い、業務のみではなく若手指導も行った。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	石原　聡	所　属	医学部　医学科	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	神経内科疾患に関する臨床講義 臨床実習中の学生に対する指導(神経診察，画像検査，生理検査等の評価方法，診断や治療方針決定の手順など)	0.20	M2対象の臨床講義(神経内科各論)を3コマ担当した 臨床実習生に対し，カンファレンス時や回診時に指導を行った
研究	0.20	臨床治験への協力 神経内科地方会等への症例報告と発表に関する指導 神経内科関連学会への参加，発表	0.20	HTLV-1関連脊髄症に対する治験の責任医師として協力した 神経内科地方会での症例発表に関する指導を行った 神経内科地方会および学術大会(総会)に参加した
社会貢献	0.00		0.05	同門のクリニックで地域住民向けの講演会でパーキンソン病に関する講演を行った
管理運営	0.00		0.05	感染対策委員会，クリニカルパス委員会，輸血療法委員会の委員として会議に参加した 試験問題の作成や試験監督として試験業務に関わった
	0.50	指定難病を含む神経内科疾患患者の入院・外来診療	0.50	週2回の専門外来および病棟入院患者に関して，神経グループ病棟担当医と共に治療方針を確認しながら診療に当たった．他院からの転院依頼や他科入院中の患者に関するコンサルトにもその都度対応を行った．
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	金城達也	所　属	医学部附属病院　第一外科	職　名	講師

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.20	医学部医学科の学生に対して：画像を取り入れた視覚に訴える講義を行う. シュミレーション器材を利用した外科手技実習を行う. 初期研修医に対して：基本的な外科知識・手技の獲得の指導を行う.	0.25	達成できた
研究	0.20	他の教員と共同で，消化器外科学領域の研究成果を学会などで発表する．1編以上の論文を執筆し，発表する．医局員の専門医取得に関連する論文執筆指導を行う．競争的研究資金申請し，臨床研究を行う.	0.25	英語論文については1編を執筆中の状態である．その他は達成できた.
社会貢献	0.10	医療行政に関連する行事に参加し，自らの専門知識によって地域医療に貢献する.	0.00	医療行政関連の行事に参加することができなかった
管理運営	0.20	医学部，医学部付属病院の各種委員会に参加して管理運営に貢献する.	0.20	達成できた
診療	0.30	患者さまの診療について，特に消化器外科学会について，学会，研究会などを通じて最新の情報の獲得，手術技術の研鑽を継続的に行い，各診療科，各部門と連携しながら最適な診療の提供につとめる.	0.30	達成できた
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	久田　正昭	所　属	医学部附属病院　第一外科	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.20	医学部医学科の学生に対して、小児外科診療特有の画像を取り入れた視覚に訴える講義を行い、実習では小児の処置に積極的に参加していただき臨床実習・教育を行う。 初期臨床研修医には基本的な小児外科知識・手技の指導を行う。	0.20	医学部医学科の学生に対して、小児外科診療特有の画像を取り入れた視覚に訴える講義を行った。 初期臨床研修医には基本的な小児外科知識・手技の指導を行った。
研究	0.30	①平成29年度より獲得し開始した基盤研究（C）（九州大学との共同研究）を進める。②小児外科学領域の研究成果を学会などで発表する。③1篇以上の論文を執筆し報告する。④小児科血液腫瘍グループとの共同で開始している小児固形悪性腫瘍観察研究の実務担当者として研究協力を継続する。	0.25	①平成29年度より獲得し開始した基盤研究（C）（九州大学との共同研究）を進めた。③投稿した論文に対する査読に対応中である。④小児科血液腫瘍グループとの共同で開始している小児固形悪性腫瘍観察研究の実務担当者として研究協力を継続した。
社会貢献	0.05	医療行政に関連する行事に参加し、自らの専門知識によって地域医療に貢献する。	0.00	医療行政に対する今年度の具体的活動はなかった。
管理運営	0.15	医学部、医学部附属病院の各種委員会に参加して管理運営にこうけんする。	0.05	災害対策委員会の委員として活動した。
診療	0.30	患者さまの診療について、特に小児外科学会などの学会、研究会を通じて最新の情報の取得・手術手技の研鑽を継続的に行い、各診療科と各部門と連携しながら最適の診療の提供に務める。	0.50	小児外科領域における外来診療、NICUと小児科を含めた入院中の小児患者の外科的治療、処置、手術治療を各診療科と連携しながら診療した。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	狩俣　弘幸	所　属	医学部附属病院　第一外科	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.20	医学部医学科の学生に対して：画像を取り入れた視覚に訴える講義を行う．講義の理解にカギとなる図表などは学生に配布する．臨床実習でローテートしてくる学生に授業・実習の履修状況を聴取し，適切な指導を行う．卒後の進路について，学生自ら進路決定を適切に判断できるように助言を行う．	0.20	医学部医学科の学生に画像を取り入れた講義を行った．図表など講義内容をは学生に配布した．シミュレーション器材を利用して外科手技実習を指導した．
研究	0.15	他の教員と共同で，消化器外科学領域の研究成果を学会などで発表する．1編以上の論文を執筆し，発表する．	0.10	県内の研究会で発表・座長を行った．
社会貢献	0.10	医療行政に関連する行事に参加し，自らの専門知識によって地域医療に貢献する．外科新専門医制度の管理・運営を行う．	0.10	新外科専門医制度のプログラムの調整・連携を行った．
管理運営	0.20	医学部，医学部付属病院の各種委員会に参加して管理運営に貢献する．	0.25	病院の各種委員会に参加，管理運営を行った．病院機能評価や看護師特定行為研修による対応などもあり，例年よりも多く委員会への参加・活動を行った．
診療	0.35	外来診療，入院患者の病棟管理，手術を行う．	0.35	外来診療，入院患者の病棟管理，手術を行った．
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	石野　信一郎	所　属	医学部附属病院 第一外科	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.20	学生の今後の臨床実習、医師国家試験に役立つ授業を行う。	0.20	新たな臨床実習レクチャーや外部講師招聘などを行った。
研究	0.10	学会誌へ積極的に投稿する。また臨床から研究テーマを見出す。	0.00	今年度は論文執筆、発表はできなかった。
社会貢献	0.10	患者を増やし地域医療に貢献する。また全国学会へも積極的に参加する。	0.10	肝胆膵領域の患者は増加傾向で、クリニックなどからも紹介いただけるようになりつつある。
管理運営	0.10	各種委員会に参加する。	0.20	院内の各委員会(医局長会、医員定数WG、臨床研修WGなど)に参加した。
診療	0.50	肝胆膵領域の外科手術手技の向上と患者増加を目指す。	0.50	肝胆膵手術は前年度と比べ増加した。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	稲福　斉	所　属	第二外科	職　名	講師

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.20	1. 学生に対する講義(M2, M3,M5); 心臓・大血管の奇形。重症心不全の外科治療、補助人工心臓治療。2.臨床実習学生に対する臨床実習指導（心臓手術における術前、術後管理、心臓カテーテル検査方法、レポート作成)。各グループへのミニ講義を行う。	0.20	1. ″重症心不全の外科治療″、″臨床奇形学″の講義をM2学生に行った。″補助人工心臓治療″講義をM5学生に行った。2. 臨床実習学生に対する指導、特にベッドサイド、手術室での術前術後管理や手術所見の指導を行い、レポート作成の指導を行った。Budd-Chari症候群および補助人工心臓治療に関してはベッドサイドでのミニ講義を行った。心カテ室で実際の検査を見ながらミニ講義を行った。
研究	0.20	1.臨床研究：① 大動脈弁疾患に対する自己心膜等を用いた大動脈弁尖再建術に関する研究 。②重症心不全に対する 植込み型補助人工心臓治療に関する研究。③Budd-Chiari症候群患者に対する調査研究。2. 各種学術集会への参加、発表。	0.20	1 臨床研究：②″重症心不全に対する植込み型補助人工心臓治療″に関する他施設共同研究に参加し、J-MACSへのデータの登録を行った。③厚労省科研事業”難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究″における総会に参加。2.日本胸部外科学会で当科でのVAD治療を報告した。 厚労省科研事業”難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究″における総会(分科会)で発表した。最新静脈学にBudd-Chiari症候
社会貢献	0.20	心臓移植を目指した植え込み型補助人工心臓治療を社会的に認知されるよう啓蒙活動を行う(心不全研究会の開催、医療施設へ出向いて患者のコンサルトを受けたり講演を行う)。第二外科における診療内容、活動内容(市民公開講座など)をホームページ上で広く紹介する。	0.10	植込み型補助人工心臓装着患者の退院前に消防士、訪問看護師への講義を行った。沖縄の心臓移植患者を支援する″芭蕉の会″を立ち上げ、心臓移植の現状および人工心臓治療について広報活動を行った。心不全患者に関して浦添総合病院よりコンサルトを受け、実際に患者を訪問診察し当院へ受け入れ後に人工心臓手術を行った。リウボウで一般市民へ第二外科の活動について報告した。
管理運営	0.10	1.医療機器安全委員会への参加、2.心臓移植適応委員会、植え込み型補助人工心臓適応委員会への資料作成協力。3. 在宅医療推進センター員として心不全患者に対する在宅医療の普及を図る。	0.10	1. 月1回の″医療機器安全管理委員会に参加した。2. 心臓移植適応委員会、植え込み型補助人工心臓適応委員会への資料作成協力を行った。3. 在宅医療推進センター員として訪問看護ステーションスタッフと話し合い、患者の訪問看護を導入した。
診療	0.30	1.心臓血管外科疾患領域患者への外来診療、2.心臓血管外科疾患への術前、手術、周術期管理、3. 補助人工心臓患者の入院、外来診療、心臓移植サポート、在宅医療支援、4. 心臓移植患者の外来診療	0.40	1. 週1回の心臓血管外科外来診療を担当した。2. 心臓血管外科疾患患者に対する術前術後管理、手術を行った。3. 植込み型補助人工心臓患者1例が心臓移植施設と連携し心臓移植へと到達した。人工心臓手術後の3例に在宅医療(訪問看護)を導入した。4. 心臓移植後患者2例の外来診療を行った(月1回/人)。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	古堅　智則	所　属	第二外科	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.10	M4/5/6/研修医に対し、症例を通して呼吸器外科領域の診療を指導する。 研修医には医療行為を経験させることで実地医療を指導し、 学生にはレポート作成を行ってもらうことで教育的指導を行う。		M4/5/6/研修医に対し、症例を通して呼吸器外科領域の診療を指導する。 研修医には医療行為を経験させることで実地医療を指導し、 学生にはレポート作成を行ってもらうことで教育的指導を行う。 →達成できた。
研究	0.30	・　呼吸器外科領域に関する臨床症例検討を行い、 全国学会での発表（2回/年）を行う。 ・　大学院での研究（胸腺内B細胞の意義）について、 酵素抗体法、蛍光抗体法の手法を用いて比較検討する。		・　呼吸器外科領域に関する臨床症例検討を行い、 全国学会での発表（2回/年）を行う。→達成した。 ・　大学院での研究（胸腺内B細胞の意義）について、 酵素抗体法、蛍光抗体法の手法を用いて比較検討する。 →上記手法で結果が出なかったため、Flow cytometryで検討中である。
社会貢献	0.10	県の呼吸器がん検診・登録事業の協議会に参加しており 肺癌等の早期発見を目指す。次世代の呼吸器外科医を育成していくこと		県の呼吸器がん検診・登録事業の協議会に参加しており 肺癌等の早期発見を目指す。次世代の呼吸器外科医を育成していくこと →不充分であった。
管理運営	0.10	入院手術件数を前年度よりも増やす。OSCEの指導。 がん登録室連絡会議委員。		入院手術件数を前年度よりも増やす。OSCEの指導。 がん登録室連絡会議委員。 →充分達成できた。
診療	0.40	患者さんに最良の治療（診断のための検査/治療方針の決定/手術） を提供できるように最善を尽くす。		患者さんに最良の治療（診断のための検査/治療方針の決定/手術） を提供できるように最善を尽くす。 →充分達成できた。
計	1.00			

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙１）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成３１年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	永野　貴昭	所　属	第二外科	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成３１年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成３１年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.20	1）臨床実習の中で、手術に参加する機会を増加させることで、外科治療(血管内治療）への知識・興味を高める。 2)ミニレクチャーを行いながら、手術で実際に使用する器具・機器に直接触れることで、胸部心臓血管外科領域(血管内治療）への関心を高める。　3）学生への講義のみでなく、臨床実習の場においても、医師国家試験成績改善を念頭に置いた教育・支援を行う。	0.20	1）臨床実習の中で、心臓血管外科領域における低侵襲治療（大動脈ステントグラフト・経カテーテル大動脈弁植え込み術）に関するレクチャーを行い、かつ実際に使用する医療材料・使用機器のデモンストレーションを行うことで、手術術式への理解を深めることができた。　2）実施の手技施行中にも、リアルタイムの画像にてレクチャーを行い、本領域への関心を持てるよう工夫した。 3）学生講義の際に、国家試験・各試験への対策を中心に、ガイドラインを参考にしながら講義を行った。現状および最新の手術治療に関する内容も盛り込み、実臨床への関心を持てるよう工夫した。
研究	0.10	1）国内未認可であるポリマーを用いた血管内塞栓物質の臨床応用を図る 2）J-ORCHESTRA(弓部大動脈瘤に対する、弓部置換術およびオープンステントグラフト術比較試験）多施設臨床研究への参加および追跡調査 3）急性大動脈解離に対する胸部ステントグラフト治療用デバイスの多施設臨床研究への参加	0.10	1）ポリマーを用いた血管内塞栓物質の臨床使用へ向け、動物実験を行い、手技の安全性および治療効果判定の確認ができた。 2）J-ORCHESTRA(弓部大動脈瘤に対する、弓部置換術およびオープンステントグラフト術比較試験）多施設臨床研究へ参加し、現在データを報告中である。 3）急性大動脈解離に対する胸部ステントグラフト治療用デバイスの使用成績調査への参加し、経過報告継続中である。
社会貢献	0.10	1）今後新規導入予定されている医療機器に関して、積極的に参入支援を行い、国内・県内への安全な普及を図る。 2）新規導入機種における安全な手術手技を、全国の心臓血管外科医へ普及する。 3）心臓弁膜症・大動脈瘤に対する低侵襲治療に関して、県内外の一般市民へ啓蒙活動を行う。	0.10	1）本年新規導入した医療機器を安全かつ効果的に沖縄県および全国へ普及させた。　2）自施設で、他都道府県の医師に対してのワークショップを年3回開催し、新規導入機種における安全な手技施行に関する知識の普及をを行った。 3）県内外での各種学会・講演会にて心臓弁膜症・大動脈瘤に対する低侵襲治療に関しての最新情報を提供した。
管理運営	0.20	1）平成30年度GRMとして得た経験を生かし、今後も担当部署のリスクマネージメントを行う。 2）病棟医長として、当該診療科の更なる手術件数増加、平均在院日数改善、稼働率向上を図る。 3）緊急患者受け入れ（当該関連疾患）に関して、さらに治療圏拡大を図り、手術件数の増加に貢献する。	0.20	1）当診療科のリスクマネージャーとして、当該部署の医療安全を管理し、医療事故の低減に貢献できた。 2）当該診療科の手術件数、平均在院日数改善、稼働率向上へ貢献できた。 3）緊急患者受け入れ（当該関連疾患）に関して、県内での各種学会・講演会にて、当施設の受け入れ態勢をアピールした。緊急患者の受け入れ、手術件数の増加に繋がった。
診療	0.40	1）心臓・大血管領域における低侵襲手術において適応疾患を拡大し、安全に遂行する。 2）今後新規導入予定のステントグラフトを国内先行使用することで、当施設の差別化を図る。 3）新規導入機種に関してのワークショップを当施設にて行い、県内外の医師に技術提供を行う。	0.40	1）特に重症大動脈弁狭窄症に対する低侵襲治療において昨年度比1．5倍の手術件数を安全に施行できた。　2）新規導入ステントグラフトを実際に国内先行使用し、治療成績を他都道府県にて発表・情報提供を行った。　2）ワークショップを開催し、参加された多くの医師より、当施設の治療体制・手術手技に高い評価を得た。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	菅原　健一	所　属	医学部附属病院　脳神経外科	職　名	講師

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.10	学生、大学院生、研修医の教育指導を行う。要点がわかりやすく、受講者の興味関心を引く講義を心掛ける。	0.10	臨床実習生（ポリクリ、クリクラ）の外来実習、病棟実習、手術実習の指導を行った。医学部2年生に対し神経医学系講義を行った。大学院生の指導を行った。
研究	0.25	悪性脳腫瘍に関する臨床的および基礎的な研究を行い、学会での報告発表、学会誌への発表を行う。多施設共同臨床試験に積極的に参加する。	0.25	脳腫瘍について臨床的な研究を行った。第47回日本小児神経外科学会、一般社団法人・日本脳神経外科学会第78回学術総会にて発表を行った。また、臨床研究「悪性神経膠腫に対する高圧酸素療法、メマンチン塩酸塩併用放射線化学治療：第III相ランダム化比較試験」の実施担当者として研究を行った。
社会貢献	0.05	関連病院における診療や市民公開講座などの場を通じて地域医療へ貢献する。	0.05	関連病院における外来診療を行い、地域医療に貢献した。
管理運営	0.10	各委員会の委員として積極的に病院および医学部の運営に貢献する。	0.10	医局長会、研修管理員会、外来化学療法室連絡会議、がん登録室連絡委員会、レジメン登録室連絡委員会、手術部運営協議会、集中治療部運営協議会の委員、教育連絡主任として病院および医学部の運営に貢献した。
診療	0.50	医療安全を推進し、患者中心の診療を行う。PETやMRIなどの画像診断装置、ナビゲーションシステム・術中MRI・神経機能モニタリング、光線力学療法などマルチモダリティーを駆使した高度な脳腫瘍手術、腫瘍治療電場療法など先進的な医療を実践する。	0.50	医療安全の推進、患者中心の診療を実践した。術者および助手として脳神経外科手術を担当し、PETやMRIなどの画像診断装置、ナビゲーションシステム・術中MRI・神経機能モニタリング、光線力学療法などマルチモダリティーを駆使した高度かつ安全な脳腫瘍手術を提供した。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	宮城　智央	所　属	医学部附属病院　脳神経外科	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.05	医学科3年生へ担当の講義(救急医療系：意識障害)が予定されている。2週間毎に臨床実習を受ける医学科5年生に担当範囲のレクチャーを継続して行い、また、医師国家試験や臨床実習についても継続して助言や指導を行っていく。1年間を通して臨床実習する医学生5年生と6年生に対して、脳神経外科外来実習について、問診・診察・カルテ記載を指導していく。初期研修医・後期研修医への指導・助言を行っていく。	0.20	医学科3年生の講義(救急医療系：意識障害)を担当し、試験問題を2問作成した。2週間毎に臨床実習を受ける医学科5年生に担当範囲のレクチャーを継続して行い、また、医師国家試験や臨床実習についても継続して助言や指導を行った。1年間を通して臨床実習する医学生5年生と6年生に対して、脳神経外科外来実習について、問診・診察・カルテ記載を指導した。初期研修医や後期研修医への指導・助言を行った。
研究	0.10	術前・術中における3Dなどの画像分析やシミュレーションなどの研究を継続し、これまで同様に学会発表を継続していく。また、それらの方法を同僚などが行えるように指導や技術提供していく。	0.30	術前・術中における3Dなどの画像分析やシミュレーションなどの研究を継続し、これまで同様に学会発表を継続した。また、それらの方法を同僚などが行えるように指導や技術提供した。文部科学省 科学研究費補助金(基盤研究(C)) を獲得した。英語論文を発表した(Developing a real-time physically deformable neurosurgical virtual reality simulation system based on clinical case data. Journal of the Japan Society for Simulation Surgery 27(1) 19-23, 2019)。第78回日本脳神経外科学術集会のシンポジウムに採択され研究発表した。第43回日本脳神経CI学会、第30回日本シミュレーション外科学会、第19回日本VR医学会学術大会、Unite Tokyo 2019にて研究発表を行った。
社会貢献	0.05	地域の医療に脳神経外科専門医として、外来などにて貢献していく。	0.05	地域の医療に脳神経外科専門医として、琉球大学附属病院や地域病院の外来などにて貢献すべくよう努めた。第6回沖縄県ブラック・ジャック セミナーにて受講した外科医を目指す学生を指導した。
管理運	0.10	感染対策実務者会議などの委員活動をこれまで同様に継続していく。その他、各種会議について代理出席にて補助していく。	0.05	感染対策実務者会議などの委員活動をこれまで同様に継続した。その他、各種会議について代理出席にて補助した。
診療	0.70	琉球大学医学部附属病院において、日々の入院、手術、外来、当直、救急の業務を、医療過誤なく、安全で確実に継続して行っていく。地域の医療に外来などにて貢献していく。	0.40	琉球大学医学部附属病院において、日々の入院、手術、外来、当直、救急の業務を、医療過誤なく、安全で確実に継続して行った。地域の医療に外来などにて貢献すべくよう努めた。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	上　薫	所　属	医学部附属病院　脳神経外科	職　名	特命助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.10	学生への脳機能解析および神経心理学検査の講義・演習等を行う。	0.10	学生への脳機能解析および神経心理学検査の講義・演習等を行った。
研究	0.50	「安静時脳活動に着目した脳・精神疾患への革新的治療法の開発」プロジェクトを推進し，高密度（256ch）脳波計および簡易脳波計での資料収集・解析を行う。	0.50	「安静時脳活動に着目した脳・精神疾患への革新的治療法の開発」プロジェクトを推進し，高密度（256ch）脳波計および簡易脳波計での資料収集・解析を行い、疾患脳の脳波の知見を深めた。
社会貢献	0.10	脳機能計測により、高次脳機能障害患者治療の一助となる情報を提供する。	0.10	脳機能計測により、高次脳機能障害患者治療の一助となる情報を提供した。
管理運営	0.00	※入試問題等、匿名を有する委員会の活動については、委員会名は記載せず、単に「委員会委員」とし、具体的な内容は記載しないでください	0.00	
診察	0.30	公認心理師として脳疾患患者の神経心理検査を担当する。 fMRI・EEGでの脳活動計測、脳波測定および解析を担当する。 インテーク面談を通して患者の精神的理解をする	0.30	公認心理師として脳疾患患者の神経心理検査を行った。 fMRI・EEGでの脳活動計測、脳波測定および解析を行った。 インテーク面談を通して患者の精神的理解をし、医療者へ伝達した。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	仲宗根　哲	所　属	附属病院	職　名	講師

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.20	医学生に対する講義。臨床実習学生に対しては、診察方法やレントゲン読影、患者診察法について講義。M3の臨床実習生に対する研究指導	0.00	目標通り行えていると思われる
研究	0.20	特発性大腿骨頭壊死研究の継続、骨粗鬆症の疫学、人工関節感染	0.00	特発性大腿骨頭壊死研究の継続
社会貢献	0.05	医療講話、啓蒙活動	0.00	骨と関節の日
管理運営	0.05	各種委員会	0.00	リスクマネージメント、分析者担当者会議
	0.50	外来診察、手術・入院診療	0.00	目標通り行えていると思われる
計	1.00		0.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	石原昌人	所　属	医学部附属病院整形外科	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.15	臨床実習（クリクラ、ポリクリ）の指導の充実（外来、手術見学、実習総括の指導）、学生講義の内容の充実	0.15	臨床実習（ポリクリ・クリクラ）の指導（外来・手術見学の指導） 学生講義（スポーツ医学）
研究	0.30	学会誌への投稿、学会発表、臨床研究の充実	0.20	5月：日本整形外科学会学術集会発表 10月：日本股関節学会発表、投稿論文提出 科研費研究計画書提出 2月：日本人工関節学会発表
社会貢献	0.20	学外（県内外）の研究会への参加	0.15	5月：日本整形外科学会学術集会参加 7月：MX人工股関節研究会参加 9月：沖縄関節外科研究会参加
管理運営	0.05	試験関連業務における具体的貢献、会議への参加（救急部運営会議、感染対策実務者会議など）、病棟医長業務	0.05	医学生試験問題作成、会議参加、病棟医長業務
	0.30	診療活動（外来業務、病棟業務、手術治療など）および医療支援など	0.45	外来診療、病棟業務、手術（股関節外科、外傷）、研修医診療・手術指導
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	笠井　昭吾	所　属	琉球大学医学部附属病院形成外科	職　名	特命助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.05	学生・臨床研修医・後期研修医への指導を行う。	0.05	学生・臨床研修医・後期研修医への指導を行う。
研究	0.10	臨床研究のテーマを決め、これを開始する	0.05	臨床研究のテーマを決め、これを開始する
社会貢献	0.05	市民公開講座などへの参加。	0.00	
管理運営	0.10	医局長会議、感染対策委員会、安全対策委員会、解剖棟ワーキンググループなどへの参加	0.10	医局長会議、感染対策委員会、安全対策委員会、新病院ワーキンググループなどへの参加
診療	0.70	外来・病棟業務、手術を行う	0.80	外来・病棟業務、手術を行う
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	久高　亘	所　属	医学部附属病院　産科婦人科	職　名	講師

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.20	医学科学生の臨床講義、臨床実習指導、TBLを充実させ、医学・医療に関する理解を深めさせる。当科診療マニュアルによる医局員教育を実施する。医学研究科大学院生を研究指導する。	0.20	医学科学生の臨床実習指導を行い、婦人科領域の臨床に関する理解を深めさせた。当科診療マニュアルによる医局員教育を実施している。
研究	0.30	婦人科腫瘍関連の各臨床研究（NRG, JGOG, JCOG）に症例登録および研究会・会議に出席する。国内・外の婦人科腫瘍関連各学会への参加、演題発表を行う。研究成果について論文を作成、発表する。	0.15	婦人科腫瘍関連の各臨床研究グループ（JCOG, JGOG）のメンバーとして、研究班会議や総会に参加、症例登録を積極的に行っている。学内臨床研究の計画、実施に関わっている。
社会貢献	0.10	沖縄産科婦人科学会での学会・研修会企画運営に携わる。沖縄県妊娠期がん診療ネットワーク協議会の委員として活動する。	0.25	沖縄産科婦人科学会の学会・研修会企画運営に携わっている。第77回九州連合産科婦人科学会学術集会の幹事として企画運営に係る準備を行っている。沖縄県妊娠期がん診療ネットワーク協議会の委員として活動している。
管理運営	0.10	病棟医長として医局運営に貢献する。外来化学療法室副室長として、外来化学療法の管理・推進に貢献する。がんセンター運営委員会、院内がん登録室連絡会委員、レジメン登録審査管理委員会、キャンサーボード委員会、薬事委員会の各委員として貢献する。	0.20	病棟医長として入院患者の管理、入退院の調整を行った。外来化学療法室の副室長として、外来化学療法の管理・推進を行った。院内がん登録室連絡会委員、レジメン登録審査管理委員会、キャンサーボード委員会の委員として各業務に携わった。
診療	0.30	手術件数、外来化学療法件数の増加を図る。外来、病棟診療体制の再構築を行い、医局員の就労環境の改善を図る。	0.20	手術件数は前年の612件から716件に増加、外来化学療法室病床利用件数は前年の349件から498件に増加した。外来および病棟担当医の配置・業務分担を適正化し、担当医の負担軽減を図った。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	百名伸之	所　属	医学部　医学科	職　名	講師

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.20	医学部学生に対し、臨床講義、TBL、ポリクリ指導を行う。特にポリクリではチュートリアル方式を採用し、学生自ら問題を見つけ出し、それに自由な発想のもとに全員で回答を創造する形式をとる。教官としては必要な医学的情報を提示し、考える力、論理的思考、斬新な発想を促す役割を担う。研修医には臨床の実践を指導する。	0.20	学生の自発性を促すことができ、単なる知識の植え付けではない創造的教育ができた。研修医には毎日のカンファレンス、回診で実践を指導した。
研究	0.30	多施設共同臨床研究により小児がんの標準的治療を確立する。独自の臨床試験により難治性疾患、慢性GVHDについて新規治療開発を目指す。基礎研究として移植後血管内皮障害と血小板マイクロパーティクルの関連を解析する。論文は英文で主著、共著で2編執筆する。	0.30	多施設共同臨床研究に参加し、症例の登録、データ収集、解析を行った。さらに、研究成果を主著で執筆し英文雑誌に掲載された。また倫理審査承認のもと、慢性GVHDの病態解明の検体収集を行った。血小板マイクロパーティクル関連は16例の登録が終了し、現在解析中である。その他英文雑誌に共著で1編掲載された。
社会貢献	0.10	骨髄バンク認定施設として、ボランティアドナーの骨髄採取を行う。また、調整医師として、ドナー候補への骨髄採取説明を行う。社会の啓発活動として、養護教諭への講義や市民向けに講演する。小児慢性特定疾患審査委員を務める。	0.10	月1例程度のバンクドナー骨髄採取を行った。調整医師活動も同程度行った。啓発活動として、沖縄県養護教諭研修会での講義、骨髄バンク推進月間行事の一環として看護学校での講演を行った。小児慢性特定疾患審査委員に出席した。また、学外の委員会委員として活動した。
管理運営	0.10	レジメン登録審査管理委員会、キャンサーボード運営委員会、手術部運営協議会、がん登録室連絡委員会、がんゲノム医療部門連絡会議に委員として参加する。	0.10	各種委員会に参加し、討議を行なった。
診療	0.30	造血細胞移植を積極的に行い、県内での移植医療を完結する。小児がん一般については、沖縄県立南部医療センター・こども医療センターと共同で診療を行う。さらに、血液専門医、小児血液・がん専門医を育成する。	0.30	年度内に6例の造血細胞移植を行った。小児がん・血液一般の診療を行い、沖縄県立南部医療センター・こども医療センターと定期的にカンファレンスを主催して県内で診療を完結することができた。また、小児血液・がん専門医、指導医として、若手の育成を行った。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	浜田　聡	所　属	小児科	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.20	臨床実習学生による実習症例報告会 学生を対象とした血液腫瘍レクチャー(月2回) 臨床免疫学レクチャー（ 抄読会）	0.20	目標通りに実施できた。
研究	0.20	同種造血細胞移植後におけるネフローゼ発症機構の解明	0.20	今年3月に造血細胞移植学会に発表行い、論文化の予定
社会貢献	0.05	骨髄バンクドナーコーディネート実施(月3回) 小児血液がん専門医制度委員	0.05	予定通りに実施できた
管理運営	0.05	リスクマネージャー業務、輸血療法委員,CBTブラッシュアップ委員	0.05	業務を遂行した。
診療	0.50	外来、病棟患者のマネージメント	0.50	毎朝カンファを施行し、治療方針を血液Gで協議おこない診療をおこなうことができた。外来業務においても昨年度より移植後患者の長期フォローアップ外来を新設して、関連スタッフと協議行い、フォロー開始している。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	山本　雄一	所　属	医学部附属病院	職　名	講師

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.25	医学部学生の皮膚科学、リウマチ・膠原病学、感染症学系の系統講義を行う。臨床実習生への皮膚科診断学、治療学に関する指導を行う。沖縄県看護協会緩和ケア認定看護教育課程の講師を務める。	0.25	医学部学生へ皮膚科学、リウマチ・膠原病学、感染症学系の系統講義を行った。臨床実習生へ皮膚科診断学、治療学に関する指導を行った。沖縄県看護協会緩和ケア認定看護教育課程の講師を務めた。
研究	0.25	日本皮膚科学会総会への参加、学術論文雑誌への論文投稿を行う。日本学術振興会の科学研究費補助金を獲得する。	0.25	日本学術振興会の科学研究費補助金を獲得した。
社会貢献	0.10	沖縄県他施設での外来診療・手術。離島での診療・手術を行う。 市民公開講座の開催、運営、講師として皮膚疾患の知識の啓蒙を行う。	0.10	沖縄県内のクリニック、総合病院での外来診療応援を行った。
管理運営	0.10	保険診療委員会、DPC委員会、救急部運営協議会、集中治療室運営協議会での委員を務め、管理運営を行う。	0.10	保険診療委員会、DPC委員会、救急部運営委員会、集中治療室運営協議会での委員を務め、管理運営を行った。
診療	0.30	琉球大学医学部附属病院を受診した外来患者および、入院患者の診療を行う。琉球大学医学部附属病院において新薬の開発治験を行い、医学の発展に貢献する。	0.30	琉球大学医学部附属病院を受診した外来患者および、入院患者の診療を行った。琉球大学医学部附属病院において新薬の開発治験を行い、医学の発展に貢献した。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	林健太郎	所　属	医学部附属病院	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.15	医学部学生への臨床講義。病院実習；皮膚科手術手技の教育や縫合実習を行っている。OSCEなどの学生試験。研修医への指導。日本皮膚科学会専門医指導医として、皮膚科専修生への指導。皮膚悪性腫瘍指導専門医の取得を目指している。	0.15	医学部学生への臨床講義。病院実習；皮膚科手術手技の教育や縫合実習を行っている。OSCEなどの学生試験。研修医への指導。日本皮膚科学会専門医指導医として、皮膚科専修生への指導。皮膚科専修医の学会発表の支援。
研究	0.20	科研費を取得し（ハンセン病）、その研究。治験の管理・実施(CAIN457の治験責任医師、他もう1件の責任医師として取組中)。所属する日本皮膚科学会、日本皮膚外科学会、日本アレルギー学会、日本形成外科学会、日本皮膚悪性腫瘍学会等、褥瘡学会等での学会発表、論文投稿。	0.20	科研費を取得し（ハンセン病）、その研究。治験の管理・実施(CAIN457の治験責任医師、M16-833の責任医師として取組中)。日本皮膚科学会地方会での発表や、各学会への参加。
社会貢献	0.10	離島医療支援：、与論島(隔週)、与那国診療所（数ヶ月に一度）での診療。沖縄本島内での地域医療の診療支援。	0.10	離島医療支援：、与論島(隔週)、与那国診療所（数ヶ月に一度）での診療。沖縄本島内での地域医療の診療支援。日本皮膚科学会の化膿性汗腺炎の診療ガイドラインの作成委員として貢献している。
管理運営	0.05	がん登録委員会、レジメン登録委員会、クリニカルパス委員会、手術部運営委員会、免疫療法副作用対策委員会、病理部運営会議、キャンサーボードへの参加および診療への反映、病院移転WG。センター試験など大学入試試験。	0.05	がん登録委員会、レジメン登録委員会、クリニカルパス委員会、手術部運営委員会、免疫療法副作用対策委員会、病理部運営会議、キャンサーボードへの参加および診療への反映、病院移転WG。センター試験など大学入試試験。
	0.50	医学部附属病院における手術、外来診療、病棟業務等の日常診療。	0.50	医学部附属病院における手術、外来診療、病棟業務等の日常診療。県内の皮膚悪性腫瘍の多くの手術と、免疫チェックポイント阻害剤を必要とする皮膚悪性腫瘍のほとんどの症例は当院へ集まっている。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	安村　涼	所　属	医学部附属病院　皮膚科	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	医学部のポリクリ・クリニカルクラークシップの学生の教育を行う。	0.30	医学部のポリクリ・クリニカルクラークシップの学生の教育を行った。 医学生への講義を行った。
研究	0.10	大学の教員として、時間のある限り、研究・学会発表の施行・支援を行う。	0.10	大学の教員として、時間のある限り、研究・学会発表の施行・支援を行った。
社会貢献	0.10	離島医療などを含めて地域医療に貢献する。	0.10	離島医療などを含めて地域医療に貢献した。 市民公開講座を行った。
管理運営	0.20	各種委員会の科の代表として管理運営を行う。	0.20	各種委員会の科の代表として管理運営を行った。
診療	0.30	皮膚科外来、入院患者の診療を行う。	0.30	皮膚科外来、入院患者の診療を行った。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	山口　さやか	所　属	医学部附属病院	職　名	講師

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.15	皮膚科修練医の学会発表、論文作成の指導、学生のポリクリにおける真菌実習指導、皮膚科講義を行う。学部学生に、皮膚結合織系の講義を行う。	0.15	学生の講義を行った。M3基礎配属の学生の指導を行った。医員の論文作成を補助した。ポリクリ学生に真菌症についてのレクチャー、顕微鏡を用いて実習を行った。
研究	0.40	遺伝性弾性線維腫の原因遺伝子の解明、栄養障害性皮膚症モデルマウスを用いた解析、をテーマに研究を行う。これらは既に科研費を獲得した研究課題である。	0.35	栄養障害性皮膚症モデルマウスを作成し、解析を行った。遺伝性疾患について、遺伝子解析を行い症例報告をした。
社会貢献	0.10	沖縄県で特に蔓延しているアタマジラミ症について、実態把握のための県全体のアンケート調査を行う。耐性アタマジラミ症の県内外からの問い合わせやシラミ検体の遺伝子検査の依頼を受ける。沖縄県内の開業医を対象にした勉強会での講師を務める。	0.15	県内外の耐性化アタマジラミの診断、治療についての問い合わせに対する対応や遺伝子検査を行った。ハンセン病講習会で講師を務めた。
管理運営	0.05	学内の委員会に参加する	0.05	院内の感染対策研修会にて講師を務めた。沖縄県皮膚科地方会、沖縄県皮膚科勉強会の運営を行った。
診療	0.30	医学部附属病院における手術、外来診療、病棟業務等の日常診療。	0.30	外来診療・病棟診療での実際の診療を通常通り行った。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	木村隆	所　属	医学部医学科	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.10	学生の教育に積極的に携わり、泌尿器科に興味をもってもらう。また、看護学校の講義を通してパラメディカルの教育にも積極的に関わっていく。また、初期研修医の教育を介して泌尿器専門医プログラムへ関心を持ってもらう。	0.20	学生のポリクリ実習を介して腎泌尿器外科に興味をもってもらう事ができた。特にクリニカルクラークシップではこれまで以上の応募があり、今後も継続して腎泌尿器外科に興味をもってもらう事が重要であると考える。また、初期研修医に関しても継続的に専攻医の応募があり、ある程度、腎泌尿器外科への関心をもってもらうことができている。
研究	0.20	糖尿病に伴なう排尿機能障害に関して磁気刺激などの治療などの研究をすすめる。（科研費）また、糖尿病に伴なう排尿機能障害について研究計画を立てて研究をすすめる。腎移植拒絶反応と糖鎖の関連について倫理委員会を通して前向きに検討する。	0.15	糖尿病ラットの動物実験に関しては計画通りに実施できた。また沖縄県医科学財団の研究助成を受けることができた。腎移植関連の研究に関してはさらなる研鑽が必要である。
社会貢献	0.10	臨床能力の向上に努め地域社会に貢献する。市民公開講座を通じて癌領域、腎移植医療への理解を深める。また県移植担当者会議などを介して献腎移植の普及に努める。	0.05	腎移植などの普及で社会貢献を行うことができた。市民公開講座などは時間の問題で施行できておらず次年度以降の課題である。
管理運営	0.10	保険診療委員会、病院経営改善会議に参加し、査定減、収益向上に貢献できるよう尽力する。また医局長会議を通じて泌尿器科としての意見を反映させる。	0.10	主要な会議にはほぼ参加することで泌尿器科としての意見を反映することができた。
診療	0.50	悪性疾患や腎移植の診療の向上に努める。 ロボット支援手術などの技術の取得及び後進の指導を行う。	0.50	腎移植数の増加に取り組み、ある程度の成果をあげることができた。またロボット支援手術を開始して技術の取得をはじめているところである。腹腔鏡手術に関しては指導医として後進の指導を行うことを開始して次年度以降も継続して行う。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	芦刈明日香	所　属	医学部腎泌尿器外科	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.20	・ポリクリ、クリクラ学生の指導（講義や日常診療での教育、プレゼン指導など）に積極的に取り組む。	0.25	日々行っており、ほぼ達成している。
研究	0.20	・現在遂行中の研究に関してその成果を国内外で発表、可能な限り論文化する。また、昨年度大学院卒業し、今年度から新たな大学院生を研究室に迎える予定もありその教育・指導も行う。	0.20	2019年9月に国内と国際学会で成果を発表した。後輩の指導も適宜し始めている。
社会貢献	0.05	・泌尿器疾患を一般市民にも知ってもらうため、市民公開講座を行う。	0.00	目標としていた市民公開講座は実施できなかった。
管理運営	0.05	・割り当てられている各種委員会に積極的に参加する。	0.05	概ね達成した。
診療	0.50	手術手技の向上に努める。臨床を行う上での新たな治療法や考えについて絶えず情報を得る・勉強をする。	0.50	概ね達成した。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	西田　翔	所　属	医学部　医学科	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.20	日中業務を学生とともに行い、彼らの医学就学に貢献する。	0.00	学生と共に、病棟回診，手術業務時間を共有し、知識と可能な限りの実践を進めた。
研究	0.10	学会発表	0.00	2019年東部泌尿器科学会、2020年臨床腎移植学会での学会発表を行った
社会貢献	0.00		0.00	
管理運営	0.00		0.00	
診療	0.70	病棟業務・手術業務・他診療科との連携を通じ、患者様へ最善の診療を提供する。	0.00	外科・婦人科を中心に手術支援を行った。また当科患者様に対して、他科へ適宜コンサルトを行い、患者様不利益がでないよう最大限の配慮を行った。
計	1.00		0.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）						
名　前	喜友名　朝則		所　属	耳鼻咽喉・頭頸部外科	職　名	講師

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.10	学生講義に臨床に即した話題、過去の国家試験問題などを取り入れながら学生の学習意欲をかきたて、さらに実習では問診や問題解決の方法などより実践的な教育を行う。学生の進路に対して積極的に相談に応じる。	0.10	学生の講義に関しては臨床の事例を交えながら動画を併用し行い、臨床実習生に関しては問診の取り方、診断のアプローチの仕方を中心に臨床に即した講義を行い、なるべく興味を持てるよう努力した。医療面接の講義や試験監督などを行った。
研究	0.35	科研費助成を受け、音声障害、嚥下障害に対する経頭蓋電気刺激を併用したリハビリの研究を行う。引き続き、音声障害、顔面神経麻痺、嚥下などの脳機能についても研究を行う。これらのデータをもとに学会発表、論文投稿を行う。	0.35	音声と脳機能に関する研究が計画通り行えた。音声に関するその他の研究も進めた。国内学会へ報告した。
社会貢献	0.03	県内の声楽家が主催する研究会において、音声に関する医学的知識の講演を行い、音声障害予防に関して社会的に貢献する。嚥下障害診療に関して研究会を開き、県内のネットワークを作り治療の質の向上に努める。	0.02	声楽発声学会など県内の声楽家が主催する研究会で、一般の声楽家へ発声に関する講演を行い、地域貢献事業に助力した。
管理運営	0.12	外来医長として外来におけるトラブルがないよう対策を考える。手術の日程を無駄なく効率よく行うことができるよう手術調整に努める。保険診療医員として適切な保険診療を行い、査定減に努める。	0.08	外来医長として外来における体制などトラブルがないように努めた。手術の日程を無駄なく効率よく行うことができるよう努めた。また、感染対策委員として感染対策を行った。
診療	0.40	音声障害、嚥下障害、気管疾患を中心に保存的治療、手術治療にとりくむ。	0.45	計画通り音声障害、嚥下障害を中心に保存的治療、手術治療にとりくんだ。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）	□ 学外公表に同意しない。	□ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	平川仁	所　属	耳鼻咽喉・頭頸部外科	職　名	講師

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.20	医学生の臨床実習、講義につき、耳鼻咽喉科、頭頸部外科の臨床的な面から積極的にかかわっていく。	0.20	医学生の臨床実習、講義につき、耳鼻咽喉科、頭頸部外科の臨床的な面から積極的にかかわることができた。
研究	0.20	頭頸部癌における遺伝子多型の研究により、科研費を取得し研究をすすめている。論文作成を目標とする。	0.20	頭頸部癌における遺伝子多型の研究を論文化し、国際誌にアクセプトされた。また頭頸部癌ターミナルケアの研究で優秀論文賞を受賞した。現在リキッドバイオプシー、癌のイメージング、センチネルリンパ節の研究を行っている。
社会貢献	0.20	頭頸部悪性腫瘍の治療を行うことにより社会的貢献できるものと考えている。	0.20	頭頸部悪性腫瘍の治療を行うことにより社会的貢献ができたと考える。
管理運営	0.10	病院管理、運営に積極的にかかわっていく。	0.10	病院管理、運営に積極的にかかわることができた。
診療	0.30	頭頸部悪性腫瘍の診療を安全かつ積極的に行っていく。	0.30	頭頸部悪性腫瘍の診療を安全かつ積極的に行っていくことができた。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	力石洋平	所　属	医学部　医学科	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.20	日常診療や手術などを通して眼科診療に対する理解を深める。	0.20	外来付き添いや手術見学、参加などを通して実際の机上の知識などを実際に見せ、説明し理解を深めることができた。
研究	0.30	前年度より研究時間を多く確保することにより研究内容をより深いものにする。 学会に参加・発表することにより知識を深め、日々の診療に還元する	0.30	学会に出席し、発表した。現在、論文執筆中。
社会貢献	0.10	開業医や市中病院との連携を確立し、お互いやりやすい環境を作る	0.20	逆紹介率の向上および新患外来の立ち上げに貢献した。
管理運営	0.20	薬事委員会、交通対策委員、システム推進委員、感染対策委員	0.10	薬事委員会、交通対策委員、システム推進委員、感染対策委員
診療	0.20	今までと同様患者に寄り添う医療が提供できるようにする	0.20	今まで以上に患者に寄り添う医療が提供できた
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	江夏亮	所　属	医学部　医学科	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	眼科外来、眼科病棟、眼科医局、手術室にて眼科医師、臨床医師として学生、後進に指導、教育する。後進医師に対しては実技も含めて臨床的な知識、技術の指導を行う。	0.20	眼科外来では医学部学生に対して、診察所見の説明や病状説明、疾患の解説などを行い、後進医師に対しては、手術指導を行ったり、実技も含めて臨床的な知識、技術の指導を行うことができた。
研究	0.20	眼科臨床研究を行い、国内の眼科学会において学会発表を行う。	0.20	日本網膜症硝子体学会、九州眼科学会で演者として発表したうえ、後進医師の発表の指導を行った。
社会貢献	0.20	講演会、地方会において地域医師を対象とした発表を行う。	0.20	眼科集談会で臨床研究の発表を行い、県内講演会で講演を行った。
管理運営	0.10	病棟会議、手術場の環境整備、物品管理を行う。	0.10	病棟会議、物品購入会議に出席し、環境整備および物品管理を行った。
診療	0.20	眼科外来、入院診療および眼科手術執刀に従事する。	0.30	眼科外来での診療を行い、手術適応患者に対しては、入院管理のうえで手術加療を行った。入院加療が必要な際には、連日診察し、入院管理を行った。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	新垣淑邦	所　属	医学部　医学科	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.35	・眼科医局の眼科専攻医が業務や診療に従事することが可能となるような教育プログラムの作成 ・TBLでは昨年の授業評価を踏まえ、学生の取り組みを重視した講義の改善 ・研究活動の知見を授業や実習への反映 ・学生、特に実習生への講義の中で意見の聴取	0.35	・部局で重点をおいている教育面について、相談しながら実習生の講義、実習を増やしより充実した内容とした。 ・TBLにおいて前年度の指摘点を修正し、授業内容を進め方を改善できた。 ・研究内容および、眼科領域でのトピックを盛り込んだ内容を実習、講義の中で紹介した。 ・学生、期研修医が学習内容をしているか、質問への回答を適宜行いながら、意見・要望に応えた。
研究	0.20	・学会での報告発表 ・外部資金の獲得	0.20	・国内の専門学会において、研究内容を報告した。 ・獲得には至らなかったが、科研費申請を行った。
社会貢献	0.10	・一般市民を対象とした、講演会	0.10	・市民講座で講演を行った。 ・ラジオに出演し、眼科疾患の内容を説明した。
管理運営	0.10	・DPC、診療報酬診療　委員	0.10	委員会における重要内容を部署内で周知した。
診療	0.25	・患者への分りやすい説明と、適切な治療の提供	0.25	・待ち時間は問題ではあったが、患者への対応、症例に応じた治療を提供できた。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	松隈　憲吾	所　属	医学部医学科	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	国家試験を意識した指導を行う。また臨床実習においては、実臨床に即した知識の指導や精神科医療の必要性、魅力についても伝達していく。	0.30	国家試験を意識した授業、指導を行った。また実臨床場面では、患者様を通して知識や医療者としての姿勢、対応についても指導を行った
研究	0.10	認知症医療を中心とした研究について研究を行っていく。	0.05	研究を行うための準備（患者の情報収集）にとどまった。
社会貢献	0.30	沖縄県の委託事業である認知症疾患センターのチーム員として標準化された医療の提供を行うとともに、療養指導や予防指導など啓発的な活動についても行っていく。	0.35	認知症疾患センターのチーム医師として医療の提供を行った。また、介護職や認知症疾患センター内の医師看護師などに対して啓発活動を行った。
管理運営	0.30	当科の病棟医長として沖縄県唯一の大学病院として、身体合併症を有した精神疾患患者の受け入れなどを積極的に行っていく。	0.30	病棟医長として積極的に沖縄県の精神科医療のニーズにこたえた。入院患者も過去最高の年となり、平均在院日数も減少傾向でその病床回転率も高くなっている。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	前本　均	所　属	琉球大学医学部附属病院放射線科	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.10	研究活動の授業への反映 国家試験対策を意識した教育	0.10	M3学生への講義、またポリクリ・クリクラの学生への教育を行った。国家試験対策を意識して行った。
研究	0.20	英文査読紙への論文投稿、発表	0.10	英文査読紙へ論文を投稿し、公表された。(Hitoshi Maemoto, Kousei Ishigami, Shiro Iraha, Ken Arashiro, Takeaki Kusada, Fumikiyo Ganaha, Sadayuki Murayama. Analyses of size and computed tomography densitometry parameters for prediction of keloid recurrence after postoperative electron beam radiation therapy. Skin Research and Technology. 2020.
社会貢献	0.05	日本放射線腫瘍学会の委員会活動への参画 JCOG多施設共同試験の施設コーディネーターとしての活動	0.10	JCOG多施設共同試験の琉球大学医学部附属病院施設コーディネーターとして、主に1402試験、1408試験、1904試験の対応を行った。
管理運営	0.05	放射線科の病棟医長、外来医長として管理運営に努める	0.10	病棟医長としてベッドコントロールを行ったほか、病院機能評価、病院移転に向けた取り組みに参加した。外来医長として紹介患者の調整を行った。
診療	0.60	ガイドライン等に沿った適切な放射線治療の実施	0.60	ガイドライン等に沿った適切な放射線治療の実施に努めた。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	久保田　陽秋	所　属	附属病院　麻酔科	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	臨床実習においては麻酔や患者の呼吸循環管理、周術期安全管理の基本に対する理解を深めることが出来るように指導を行う。手術室看護師に対して麻酔介助・患者安全に関する指導を行う。初期研修医が麻酔業務を通して医師として習得すべき基本的な考え方・手技を習得できるよう指導する。後期研修医に対しては、麻酔手技や専門的知識を習得し、自身で安全な麻酔管理を行えるように指導を行う。	0.35	臨床実習においては麻酔や患者の呼吸循環管理、周術期安全管理の基本に対する理解を深めることが出来るように指導を行った。手術室看護師に対して麻酔介助・患者安全に関する指導を行った。初期研修医が麻酔業務を通して医師として習得すべき基本的な考え方・手技を習得できるよう指導した。後期研修医に対しては、麻酔手技や専門的知識を習得し、自身で安全な麻酔管理を行えるように指導を行った。
研究	0.15	マウス中大脳動脈脳梗塞モデルにおいて一酸化窒素合成酵素完全欠損マウスのオスでは脳梗塞縮小効果が認められた。一酸化窒素合成酵素の有無がテストステロンの効果を切り替え脳梗塞を改善・増悪するメカニズムを解明する研究を進展させる。	0.10	一酸化窒素合成酵素の有無がテストステロンの効果を切り替え脳梗塞病態を改善したり、逆に増悪させたりする現象について、論文作成を行っている。
社会貢献	0.20	地域の関連施設に週1回出向し、関連施設の医師及び看護師に対し、技術指導及び教育を行い、地域住民への医療支援及び医療技術の還元を行う。	0.20	地域の関連施設に週1回出向し、関連施設の医師及び看護師に対し、技術指導及び教育を行い、地域住民への医療支援及び医療技術の還元を行った。
管理運営	0.15	手術室の効率的運営を行えるように、看護師、医師と協力し、手術室稼働の調整を行い、安全かつ迅速に運営を行う。	0.15	手術室の効率的運営を行えるように、看護師、医師と協力し、手術室稼働の調整を行い、安全かつ迅速に運営を行った。
診療	0.20	附属病院手術室において、麻酔業務に専従し、手術数増加のために貢献する。手術を受ける患者に対し、安全で高度な医療を提供する。新規手術の安定に向けた麻酔管理を準備していく。	0.20	附属病院手術室において、麻酔業務に専従した。手術を受ける患者に対し、安全で高度な医療を提供するように心がけ実践した。
計	1.00	あ	1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	大久保　潤一	所　属	医学部医学科	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.20	医学部学生の講義に際して、学生が積極的に参加できるように講義の工夫を行う。また、研修医、ローテーターに対し、実際の麻酔管理、ペインクリニック診療の教育を行い指導する。教官として学生,研修医の進路指導に関わる。	0.20	医学部学生の講義に際して、学生が積極的に参加できるように講義を行った。また、研修医、ローテーターに対し、実際の麻酔管理、ペインクリニック診療の教育を行い指導した。教官として学生,研修医の進路指導に携わった。
研究	0.20	麻酔、ペインクリニック、緩和ケア関連の臨床研究、症例検討を行い、学会等で発表を行う。症例報告、原著論文を作成する。	0.20	ペインクリニック学会、がん地域連携カンファレンスでの発表を行った。
社会貢献	0.10	地域の関連施設に週一回出向し、ペインクリニック領域の治療を行う。また関連施設の医師及び看護師に対し、技術指導及び教育を行い、地域住民への医療支援及び医療技術の還元する。	0.10	皮膚科研究会で開業医向けに帯状疱疹の講演を行った。緩和ケア研修会での講義を行った。
管理運営	0.10	スタッフとして医局、手術室、ICU運営に協力する。	0.10	スタッフとして医局、手術室、ICU運営に協力した。
診療	0.40	外来での認知行動療法や神経ブロック治療など痛みに関する診療を行う。緩和ケアチームの一員として、入院患者のがんに関連した症状の緩和のためのラウンドを行う。	0.40	外来での認知行動療法や神経ブロック治療など痛みに関する診療を行った。また、緩和ケアチームの一員として、入院患者のがんに関連した症状の緩和のためのラウンドを週に2回行った。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	林　美鈴	所　属	医学部　医学科	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.25	麻酔・集中治療に関する系統講義を医学部学生に行い、臨床実習においては麻酔や患者の呼吸循環管理、周術期管理の基本に対する理解を深めることが出来るように指導を行う。手術室看護師に対して麻酔介助・患者安全に関する指導を行う。初期研修医が麻酔を通して医師として習得すべき基本的な考え方・手技を習得できるようサポートする。後期研修医に対しては、麻酔手技や専門的知識を習得し、自身で安全な麻酔管理を行えるように指導を行う。	0.25	麻酔・集中治療に関する系統講義を医学部学生に行い、臨床実習においては麻酔や患者の呼吸循環管理、周術期管理の基本に対する理解を深めることが出来るように指導を行った。手術室看護師に対して麻酔介助・患者安全に関する指導を行った。初期研修医が麻酔を通して医師として習得すべき基本的な考え方・手技を習得できるようサポートした。後期研修医に対しては、麻酔手技や専門的知識を習得し、自身で安全な麻酔管理を行えるように指導を行った。
研究	0.20	硫化水素吸入が動物の肺に与える影響に関する基礎研究を行い、論文を執筆する。後期研修医と共に臨床で得られた新しい知見を元に学会報告、論文発表を行う。	0.20	硫化水素吸入が動物に与える影響に関する基礎研究を行った。後期研修医と共に臨床で得られた新しい知見を元に学会報告をおこなった。臨床研究を計画し開始した。
社会貢献	0.20	地域の関連施設に週1回出向し、関連施設の医師及び看護師に対し、技術指導及び教育を行い、地域住民への医療支援及び医療技術の還元を行う。	0.20	地域の関連施設に週1回出向し、関連施設の医師及び看護師に対し、技術指導及び教育を行い、地域住民への医療支援及び医療技術の還元を行った。
管理運営	0.05	手術室の効率的運営を行えるように、看護師、医師と協力し、手術室稼働の調整を行い、安全かつ迅速に運営を行う。	0.05	手術室の効率的運営を行えるように、看護師、医師と協力し、手術室稼働の調整を行い、安全かつ迅速に運営を行った。大学入試センター試験の試験監督を行った。
診療	0.30	附属病院手術室において、麻酔業務に専従し、手術数増加のために貢献する。手術を受ける患者に対し、安全で高度な医療を提供する。新規手術の安定に向けた麻酔管理を準備していく。	0.30	附属病院手術室において、麻酔業務に専従し、手術数増加のために貢献した。手術を受ける患者に対し、安全で高度な医療を提供した。新規手術の安定に向けた麻酔管理を行った。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	安部　真教	所　属	医学部附属病院　麻酔科	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.20	医学部学生・研修医に対し、積極的に実習に参加できるよう、安全に注意を払い丁寧に指導教育を行う。研修医に対し実際の麻酔管理、ペインクリニック外来の実習監督を行い、指導教育する。	0.20	医学部学生、研修医に対し、講義、臨床実習を通して全身管理、麻酔管理、ペインクリニック、緩和ケアの教育、指導を行った。
研究	0.10	麻酔、ペインクリニック、緩和ケア関連の臨床研究、症例検討を行い、学会等で発表を行う。症例報告、原著論文を作成する。	0.10	ペインクリニック、緩和ケアの症例検討を行い、後期研修医の学会発表のための指導を行った。
社会貢献	0.20	地域関連施設に出向し、関連施設の医師および看護師に対し、技術指導及び教育を行い、地域住民への医療支援および技術の還元を行う。	0.20	地域の関連施設に週一回出向し、関連施設の医師及び看護師に対し、技術指導及び教育を行った。緩和ケア研修会で緩和ケアに関して、慢性疼痛関連の研修会で講師を担当した。看護学校で講義を行った。
管理運営	0.10	手術室の効率的運営を行えるように、看護師、医師と協力し、手術室稼働の調整を行い、安全かつ迅速に運営を行う。外来業務に携わるスタッフと協力し、安全かつ効率的に外来業務を行う。	0.10	手術室看護師、外科系医師と協力し、安全・迅速に手術室運営を行った。外来看護師、スタッフと共に協力して運営を行い、安全かつ効率的に業務を行うことができた。
診療	0.40	附属病院手術室において、麻酔業務に専従し、手術を受ける患者に対し安全かつ高度な医療を提供する。また、手術数増加の為に貢献する。ペインクリニック外来で疼痛患者の治療を行い、院内緩和ケアチームで活動運営を行う。	0.40	附属病院手術室において、手術を受ける患者に対し、安全で高度な医療の提供に努めた。ペインクリニック外来において痛みの治療を行い、多くの患者でQOLの改善がみられた。院内緩和ケアチームの活動を行い、苦痛の緩和を行った。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	後藤　尊広	所　属	琉球大学医学部附属病院歯科口腔外科	職　名	講師

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.10	新たに医局に入局する初期研修医に対する臨床現場での指導。さらに、研究の楽しさを教えるために学会発表指導を行い、研究への興味と、大学院への入学の足掛かりとなる存在になりたい。 医学部学生に対しては、講義や手術を通じて、病院歯科の役割などを体感してもらいたい。	0.10	初期・後期研修医を臨床、また学会発表にて指導を行った。また心理的なサポートを行ってきた。 学生に対して病院歯科の役割を、歯科口腔外科診療に関して実際に目で見て、時に手で触ってもらい、また座学を通じて学んでもらった。
研究	0.25	1年に1本以上の英語論文執筆、投稿、アクセプト。加えて、学会発表を国内外で行う。研究の成果が外部獲得資金に繋がることをさらに意識していく。 H27に獲得した若手Bから基盤研究獲得へ繋がるような実績作りをする。さらに、国際共同研究強化(B)に応募したいと考えている。	0.25	本年は、英語論文を1編投稿し、また国際学会で1度発表を行った。 また、獲得できなかったが国際強化Bまた基盤研究Cに応募した。今後、外部資金を獲得することを課題としていきたい。
社会貢献	0.20	ラオス国における口唇口蓋裂無償手術活動の継続参加。沖縄県内口唇口蓋裂患者家族の会の定期講演主催。歯科医師として周術期口腔機能管理の重要性の講演を行う。	0.10	本年も12月20日より26日までラオス国における口唇口蓋裂無償手術活動に参加。運営の中心となり円滑かつ無事に遂行することができた。
管理運営	0.10	各種委員会への参加。さらに、臨床では診療報酬向上を意識し、病院収益に貢献する。特に本年は外来担当にて周術期口腔機能管理の向上ならびに外来手術件数の向上に力を入れたいと考えている。医局長として地域の先生との関係を深め、病診連携を強化する。また医局ガバナンスを図る。	0.20	各種委員会への参加。また、医局長として病床稼働また、周術期口腔機能管理料加算等の診療報酬向上を意識し、医局員に病院収益に貢献できるよう徹底してきた。また、医局長として地域の先生との関係を深め、病診連携を強化した。
臨床	0.35	専門の口唇口蓋裂手術ならびに管理。さらに口腔外科疾患の治療に邁進する。 周術期口腔機能管理に積極的に取り組んでいく。 手術件数・病床稼働率を頻繁に医局員に提示し、改善を求める。	0.35	専門の口唇口蓋裂手術ならびに管理、さらに口腔外科疾患の治療、また医科と連携しながら周術期口腔機能管理を積極的に取り組んできた。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	片岡恵一	所　属	医学部　歯科口腔外科	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.20	外科的矯正治療および先天異常疾患に起因する矯正治療に関して、新人教育および学生教育にカリキュラムとして導入する。卒後研修医局員に対し、適切な歯科に関する知識、技術を提供し、今後の進路および得意分野の開発におけるアドバイスを行う。また、学会発表、論文作成を研修医などを含めて行い、大学院での基礎研究も行う。また、医科学研究の学生にも関連する研究を指導する。	0.20	外科的矯正治療および先天異常疾患に起因する矯正治療に関して、新人教育および学生教育を行った。卒後研修医局員に対し、適切な歯科に関する知識、技術を提供し、今後の進路および得意分野の開発におけるアドバイスを行った。また、学会発表、論文作成を研修医などを含めて行い、大学院での基礎研究も継続している。
研究	0.20	顎変形症および先天異常疾患に起因する矯正治療における、機能、形態学的な臨床研究を引き続き行いつつ、基礎研究における多施設共同研究の推進を行い琉球人の頭蓋顔面形態についての遺伝学的検討について研究を進める。若手研究または基盤研究Cでの競争的資金獲得を目指す。	0.20	顎変形症および先天異常疾患に起因する矯正治療における、機能、形態学的な臨床研究を引き続き行いつつ、基礎研究における多施設共同研究の推進を行い琉球人の頭蓋顔面形態についての遺伝学的検討について論文投稿準備中である。若手研究までの競争的資金獲得に出願している。
社会貢献	0.10	診療科としての特色である、顎変形症、口唇口蓋裂治療に関しての情報発信を行う。当初、歯科口腔外科のホームページでの情報発信から始めていき、市民公開講座ラジオなどでの広義での情報提供、歯科健診などのスクリーニングによる狭義での情報提供を行う。	0.10	診療科としての特色である、顎変形症、口唇口蓋裂治療に関しての情報発信を行う。当初、歯科口腔外科のホームページでの情報発信から始めていき、ラジオでの広義での情報提供、歯科健診などのスクリーニングによる狭義での情報提供を行った。
管理運営	0.10	各委員会での積極的な意見交換、システム、セキリュティーなどの不備などを減らすよう、日々相互点検を行う。また、新規導入デバイスについての運用管理も行う。	0.10	歯科用マイクロスコープの導入を行い、管理運営をしている。また、新規デバイスの導入などに向けた準備、支援を行う。
診療	0.40	顎変形症、口唇口蓋裂、先天異常症例における歯科矯正治療症例、私費の矯正歯科治療、および一般歯科治療より多くの症例を受け入れ、大学病院の診療科としての付加価値を向上する。また、所属学会の認定医取得を目指す。	0.40	顎変形症、口唇口蓋裂、先天異常症例における歯科矯正治療症例、私費の矯正歯科治療、および一般歯科治療より多くの症例を受け入れ、前年比で外来患者数150%程度となった。また、障害者歯科学会の認定医を取得した。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	又吉　亮	所　属	医学部　医学科	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.15	ポリクリ学生へ医科歯科連携の重要性について、将来連携が取れるように講義を行う。研修医への診療指導。医員、研修医が研究活動に興味が持てるように指導。FDへの参加。	0.15	達成した
研究	0.30	英文誌へ投稿。国内学会発表。口腔癌治療に関する多施設共同研究に参加。	0.25	英文誌への投稿はできていない。
社会貢献	0.10	講座主催の講習会を企画。主催学会の準備。	0.10	達成した。
管理運営	0.05	病院内各種委員会に参加（レジメン、救急、高気圧、キャンサーボード）し、病院運営に積極的に参加。講座ホームページを管理。	0.05	達成した。
診療	0.40	口腔癌治療を中心に患者の入院治療と術後のフォローを行う。がん治療認定医試験の準備。	0.45	達成した。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	松崎　晶子	所　属	医学部　附属病院　病理診断科	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	ポリクリ／病理学の授業を通じて、学生の病理学ひいては疾病の理解を助ける。ポリクリの病理では外科病理の実際業務を理解させ、教室の授業では実感できなかった病理診断を実際に学生にもみさせる。病理解剖においては、死因の追求のみならず、研修医への教育も個々の症例に準じて行う。教育CPCも開催し、研修医の教育を行う。	0.30	ポリクリ／病理学の授業を通じて、学生の病理学ひいては疾病の理解を助ける。ポリクリの病理では外科病理の実際業務を理解させ、教室の授業では実感できなかった病理診断を実際に学生にもみさせた。病理解剖においては、死因の追求のみならず、研修医への教育も個々の症例に準じて行った。教育CPCも開催し、研修医の教育を行った。 医科学研究においても学生の指導を行い、臨床研究の意義などを学生に指導した。
研究	0.20	日本病理学会や日本臨床細胞学会で外科病理症例の発表を行う。外科病理症例で、問題症例や希症例については消化器外科／内科との合同カンファレンスを行い検討し、稀症例については研究会や学会での発表を行う。報告をまとめて雑誌への投稿も行う。	0.20	日本病理学会や日本臨床細胞学会で共同演者として外科病理症例の発表を行った。外科病理症例で、問題症例や希症例については消化器外科／内科との合同カンファレンスを行い検討し、稀症例については九州スライドカンファレンスで発表を行った
社会貢献	0.10	県内各病院の病理診断や病理解剖に従事する。 また、県内の沖縄県肝胆膵疾患研究会などに参加し、病理診断のディスカッションを行う。	0.10	県内各病院の病理診断や病理解剖に従事した。 また、県内の沖縄県肝胆膵疾患研究会などに参加し、病理診断のディスカッションを行った。
管理運営	0.10	病理診断科における医員・研修医に対する管理・ミーティングを行う。委員会に所属し、CBTや医師国家試験問題作成などを行う。	0.10	病理診断科における医員・研修医に対する管理・ミーティングを行った。
診療	0.30	病院病理部での診断。琉大キャンサーボードや他科とのカンファレンスや学外での勉強会へも参加、診断困難症例に対し、他科と連携して診断を行っていく。	0.30	病院病理部での診断。琉大キャンサーボードや他科とのカンファレンスや学外での勉強会へも参加、診断困難症例に対し、他科と連携して診断を 行った。
計			1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	青山　肇	所　属	医学部附属病院	職　名	特命助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.25	1.臨床実習における学生の指導を行う。その際、個々の症例の捉え方を的確かつ丁寧に指導できるように知識の充実を図る。 2.病理診断科に研修に来る初期研修医の指導を行う。その際に組織の顕微鏡的観察だけではなく、肉眼診断の重要性、臨床情報の理解が重要であることを認識させる。 3.専門研修プログラムの運用を行う。	0.25	
研究	0.25	1.外科病理組織を用いた病理学的な研究を確立し、学会発表や論文作成を目指す。 2.後期研修医や初期研修医の学会報告の指導を行う。	0.25	
社会貢献	0.15	離島を含む県内各病院の病理診断・病理解剖に従事する。	0.15	
管理運営	0.10	医局長会議や病院システム運用委員会など、病理診断科の業務が円滑に進むよう様々な管理業務やミーティングを行う。	0.10	
診療	0.25	1.大学病院における病理診断業務を行う。 2.キャンサーボードなど臨床各科とのカンファレンスに積極的に参加する。	0.25	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	増田　昌人	所　属	医学部附属病院　がんセンター	職　名	特命准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.15	治療学（臨床腫瘍学）の分担担当者として、前年の講義終了後のアンケート調査結果を基に講義内容や講義用スライド等の講義用資料を改善する。研究成果を講義内容に反映するよう努力する。 FDに参加する。 2年次の指導教官として、学校生活上の問題も含めて、進路指導に当たる。	0.15	独自に学生に対して講義終了後にアンケートを行い（毎年）、その結果を踏まえて、今年は臨床腫瘍学の講義スライド（学生配布用資料も含む）の2割を入れ替えた。厚労省科研費研究班での、特に①がんに関する情報提供、②がん医療の質の評価、③がん対策の評価の成果を講義に取り入れて学生に説明した。今年も講義終了後に、講義に関するアンケート調査を行い、次年度の講義の改善のためのデータ収集を行った。 FDに積極的に参加した。 担任している学生が単位を落としそうになったり、また実際に単位を落とした学生と個別に相談をしている。また、単位を落とした学生の保護者の個別相談に応じている。
研究	0.20	学会での報告発表、学会誌への投稿等を行う。 学会評議員等として、学会を通じた研究活動を行う。 外部資金を獲得する。 国立がん研究センターがん対策情報センター等との共同研究を継続する。	0.25	『病院管理』（日本病院管理学会機関紙）査読、日本臨床腫瘍学会総会査読・専門医試験査読/評価、日本緩和医療学会総会査読、日本造血細胞移植学会評議員・ドナーの安全検討研究WG・後期合併症とQOL研究WG、日本がんサポーティブケア学会部会調整委員会委員・患者医療職部会委員として学会活動、研究活動に貢献した。 外部資金としては、①文科省科研費100万円（代表1件、分担1件）、②厚労省科研費50万円（分担1件）、③沖縄県受託事業費1,800万円（代表2件）を得た。
社会貢献	0.20	学外の沖縄県等の審議会や委員会等の委員として参画する。 学外の研修会や講演会の企画や講師として参画する。	0.15	厚労科研研究班分担研究者（増田小班班長）として、厚労省第3期がん対策基本計画の中間評価、特に「患者体験調査」の原案を作成し、がん診療連携拠点病院の200病院で、20,000人のがん患者に、厚労省主催で昨年度末から今年度初めにかけてアンケート調査を行った。現在、研究班において、その結果の解析を行っている。来年度初めに、報告書を公開する予定である。 また、わが国の院内がん登録のガイドライン・マニュアルの改訂やその運用方法策定に関わっている。国立がん研究センターがん登録研修専門家パネル委員として、全国で行われている厚労省委託国がん主催の研修会のカリキュラム改訂に携わった。同様にがん登録認定試験検討委員会委員として、認定制度の改革と問題作成、評価等に携わった。 NPO法人日本がん登録協議会外部監査委員会委員として、都道府県がん登録室の安全管理措置に関する外部監査業務を行っている。
管理運営	0.25	がんセンター長として、がんセンターの運営を行う。 沖縄県統括相談支援センター長として、沖縄県統括相談支援センターの運営を行う。 附属病院の各種委員会に参加する。 都道府県がん診療連携拠点病院の再指定の申請が予定されているので、現在満たしていない指定要件を満たすために、積極的に病院の各部署に働きかけを行う。	0.25	がんセンター長として、がん診療連携病院の指定要件を満たすために、義務要件で満たしていない要件を中心に積極的に病院の各部署に働きかけを行った。 これまでの活動が厚労省から高く評価され、がん診療連携拠点病院機能強化事業費について平成30年度では全国436拠点病院中第9位の予算（5,367万円）を得た。また、今年度は、5,690万円を得た（拠点病院標準基準額は1,000万円、順位は現時点では未発表）。 沖縄県統括相談支援センター長として、沖縄県からの委託事業を積極的に行った。 附属病院の種々の委員会に参加した。
診療	0.20	外来診療を週1回行う。 外来化学療法室での診療を行う。 がん診療に関するセカンドオピニオンに対応する。 がん診療に関する地域連携クリティカルパスの作成と改定を行う。	0.20	新たに、「がんゲノム相談外来」を開設し、来年度からの当院におけるがんゲノムパネル検査の受付開始前の、院内外からの患者紹介と問い合わせに一人で対応した。また、従来通り、内科外来診療を週1回行い、他科からの紹介に積極的に対応した。 がん診療に関するセカンドオピニオンを行った。 免疫チェックポイント阻害薬に関する多職種チーム（チームIO）を組織し、その委員長として、院内マニュアルを作成し、殆どの診療科が開始したがんに対する免疫療法の安全施行に貢献した。 沖縄県統一のがん診療に関する地域連携クリティカルパス（胃がん、大腸がん、肝がん、乳がん、肺がん、前立腺がん）を、沖縄県の取りまとめ役として運用している。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	浅見 晴美	所　属	医学部附属病院　リハビリテーション部	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.25	専攻医に対する臨床実習の指導（診察手技、検査手技など）、医学部生への学生講義及び臨床実習の指導	0.25	専攻医に対する臨床実習の指導（診察手技、検査手技など）、医学部生への学生講義及び臨床実習の指導、保健学科での学生講義
研究	0.25	臨床研究や学会発表、投稿論文	0.20	臨床研究、学会発表（2019年11月第3回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会）
社会貢献	0.15	更生相談所の嘱託医、学会への研究会への参加、沖縄県の大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会への参加	0.20	更生相談所の嘱託医、学会、研究会への参加、市民公開講座での講演、沖縄県の大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会への参加、障害児を対象とするランニングイベント活動への参加、琉大病院ラジオへの出演
管理運営	0.05	緩和ケア連絡会議でがん治療に伴うまたはがんに起因したリハビリテーション数の報告	0.05	緩和ケア連絡会議でがん治療に伴うまたはがんに起因したリハビリテーション数の報告
診療	0.30	診療及び医療支援	0.30	診療及び医療支援（6東NSTを含む）
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	廣瀬　康行	所　属	医学部　附属病院　医療情報部	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.00	・学生指導の担当割当はないので該当しない	0.00	・学生指導の担当割当はないので該当しない
研究	0.70	・他の研究機関等の研究者との共同研究を実施する ・学術雑誌への投稿を試みる	0.70	・他の研究機関等の研究者との共同研究を実施した （研究グループ csxTM の活動を継続して他の機関の研究者と共同研究し、論文発表の順次を実施した） ・上記の共同研究の成果を、学術雑誌への投稿を試みたが、分量と複雑さの事由から、初期発表は学会口演に投稿し受領され、来春に発表することとなった（JSOM）。
社会貢献	0.29	・ISO（国際標準機構）TC215 に参画して標準化動向を観察する	0.29	・ISO（国際標準機構）TC215 に参画して標準化動向の観察を継続した。 ・なお、その内容の一部は学術学会からの依頼により、第一四半期に JSAM 学術大会にて口演説明した。
管理運営	0.01	・各種委員会等の委員を任命された場合には、当該委員として管理運営に関わる（たとえば RAINS： 総合情報処理センター運営委員会委員）	0.01	・総合情報処理センター運営委員会委員を任命されたので、その職責を全うした。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1） 本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	仲松正司	所　属	医学部附属病院　感染対策室	職　名	特命助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.20	学生や研修医への講義、職員への研修会を開催する。 研修医向けの感染症についての講義を行う。 培養検査の意義について職員への普及啓発を行う	0.20	医学部生に対し手指衛生の講義を実施。 研修医を対象に血液培養の講義、実習を実施。 抗菌薬適正使用研修会で、抗菌薬使用、培養について教育を行った
研究	0.10	専門学会での報告、論文化を行う。	0.10	専門学会での報告を行った
社会貢献	0.30	地域連携加算を通して県内他病院への感染対策支援を行う 渡航者やその他希望者へのワクチン相談、接種事業を継続して行う。 沖縄県での耐性菌ネットワーク体制構築に向けて県や保健所と連携して活動を行う。	0.10	地域連携加算を通して県内他病院への感染対策支援を行う 渡航者やその他希望者へのワクチン相談、接種事業を継続して行う。
管理運営	0.10	病院移転での各種WG参加を行う。	0.30	病院移転において感染対策の面から助言、提言を行った
診療	0.30	感染症症例の相談を担当する。 血液培養陽性例を中心に診療支援を継続する 抗菌薬処方の把握、適正化を行う。	0.30	感染症症例の相談を担当した 血液培養陽性例を中心に診療支援をおこなった 抗菌薬処方の把握、適正化を行った
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	寺田　泰蔵	所　属	附属病院　救急部	職　名	特命教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.40	救急部における研修員、学生教育の実践、改善、全県新人研修員シミュレーショントレーニング、看護師特定行為研修の講師、指導教員としての学生支援	0.40	研修医、学生に対しオンザジョブトレーニングを日常的に行った。また全県新人研修医シミュレーショントレーニング講師、看護師特定行為研修の講師、実習指導を行った。また、初期研修医共通研修企画WGのメンバーとして活動し、シミュレーショントレーニングを行った。
研究	0.05	日本救急医学会九州地方会　評議委員、日本中毒学会九州地方会　世話人としての役割遂行	0.05	日本救急医学会九州地方会　評議委員として九州地方会への参加、評議委員会へ出席した。日本中毒学会九州地方会　世話人との職務を遂行した。
社会貢献	0.05	南部地区MC協議会（血液曝露対策委員長、検証システム委員長）への参加、DMAT活動への参加	0.05	南部地区MC協議会（血液曝露対策委員長、検証システム委員長）へ参加し職務を遂行した。業務のスケジュール上、DMAT活動への参加はできなかったが、災害対策相互訪問事業として佐賀大学の災害訓練の視察と評定を行った。
管理運営	0.10	救急部副部長（ER部門長）として、救急外来の管理運営、救急部運営委員会への参加。	0.10	救急部副部長（ER部門長）として、救急外来の管理運営を行い、新病院の救急部門設計の作業に関わった。救急部運営委員会に参加した。また病院機能評価受審の準備を担当した。
診療	0.40	救急部における救急診療の実践、改善	0.40	救急部において救急診療の実践し、多くの患者の診療にあたった。重症患者受け入れの体制整備に着手し、また麻疹や新型コロナウィルス感染症患者などの受け入れ態勢の整備において各部署との連絡調整などを行っている。またRRSの運用に向けた準備を行っている。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	玉城佑一郎	所　属	医学部・医学研究科	職　名	特命准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.03	学内救急医療講義で救急医療について講義教育する。 臨床実習時の学生、救急部にローテーションする初期臨床研修医と診療を一緒に行いながら救急診療に関われる医師の育成に努める。	0.01	31年度は自己研鑽に力を入れたため、これまでの様に教育する事が出来なかったが、やっていない訳ではなく、救急部も増員したので引き続き教育へは力を入れていく。
研究	0.01	医局員の研究や論文作成に対して補助する形を取っていく。	0.03	日本語ではあるが、ようやく1本は論文寄稿出来た。研修医の論文記載の指導や大学院生の研究指導も行った。
社会貢献	0.10	アメリカ心臓協会による心肺蘇生講習のトレーニングサイトや各スポーツイベントの医療に携わり、医療従事者や市民に対し救急医療を生かしていく。災害関連事業において県庁と積極的に関わっていき地域消防職員と連絡を密にしていく。MESH飛行機で各離島における地域医療に携わっていく。	0.45	心肺蘇生講習活動を引き続き行い行っており、スポーツドクターとしてアスレチックトレーナー講習をしたり、スポーツイベントでのボランティア活動を行っていった。また地域の為に医療支援課と共に活動し、地域包括ケアシステムに取り組むため会議へ参加し、病院の役割と位置づけを現在も行っている。MESH飛行機で日本初の1類感染症搬送を可能にした。
管理運営	0.80	診療報酬も変わった事や救急医師数も増員した事から、これまで出来なかったシステム作成に貢献していく。入局した後期研修医が大学病院で研修していないため今後の中期計画を大幅に変更せざるを得ず総務課や医療支援課と相談しながら再構築していく。	0.45	社会貢献とつながるが、地域包括ケアシステムに取り組み入退院への取り組みを行い、入院患者数の増加につなげる事や文科省に提出している中期計画通りの進捗が行えている。地域の消防へ講演に行き情報共有を行い、当院と連携の強化活動が出来た。
診療	0.06	救急車患者受診数は増加中であり、今後の課題に向けて医局員や消防との連携を話し合っていく。	0.06	医局員が増員した事もあり、救急車受診数が増加した。課題も挙げる事が出来、消防で勉強会を行い次につなげる解決につながった。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙１）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	中島重良	所　属	医学部附属病院救急部	職　名	特命准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.15	初期研修医に対して、脳卒中初期診療の標準化コースを企画する。 初期研修医および学生に対して、外傷の標準化された診療手順を指導する。 看護師を対象として、災害医療についての研修会を行い、災害時にリーダーシップを発揮できる人材を育成する。	0.20	初期研修医に対して外傷初期診療ガイドラインに沿った講義、実習を行った。学生に対しては適切な症例に恵まれた時に指導を行った。 約半年間を通して、看護師に対して災害医療についての研修会を行うことができた。結果として第2期の災害トリアージプロバイダを育成することができた。 院内職員に対して広くBLS講習会を行うことができた。 院内職員に対して2回のICLSコースを開催することができた。 今年度は脳卒中初期診療コースは行うことができなかった。
研究	0.10	引き続き救急医療および災害医療について、沖縄県における特性について研究する。	0.10	沖縄県の救急災害医療の特性について考えるため、上記の病院前救護コースへの参加および消防との交流や意見交換、下記の訓練参加などのフィールドワークを行った。
社会貢献	0.15	引き続き地域の消防機関との密接な関係＝顔の見える関係の構築に努める。具体的にはJPTECコース（病院前外傷救護）、MCLSコース（多数傷病者への対応標準化トレーニングコース）に参加する。MC協議会活動に参加する。	0.20	第61回、62回、64回沖縄外傷セミナー（JPTECプロバイダーコース）に講師として参加した。第21回（開催責任者として）、第22回（開催世話人として）MCLS標準コースに参加した。3月に沖縄県初のCSRM（狭隘空間における救助と医療）コースを開催予定である。 南部地区MCに所属する消防の救急救護活動の検証を行った。また南部地区MC検証会議に参加した。気管挿管認定救命士の想定実習に講師として参加した。
管理運営	0.20	災害発生時に、琉球大学医学部附属病院が県内で中心的な役割を担えるよう、質の維持向上に努める。 DMAT隊員として積極的に県内外の訓練等に参加する。 災害対策マニュアルの改訂を進める。	0.20	県内の訓練として沖縄県総合防災訓練、美ら島レスキューにDMAT隊員として参加した。 DMAT九州沖縄ブロック訓練にDMATとして参加した。 琉球大学病院災害訓練を企画運営し訓練を開催した。新しい試みとして他機関との連携訓練、BCPに関わる訓練を取り入れることができた。
診療	0.40	救急患者の診療に従事し、救急部専従の脳神経外科医として、特に脳卒中診療、頭部外傷を含む外傷診療全般の質の向上に努める。	0.30	救急部専従の脳神経外科医として、神経救急の初期診療、および入院後の診療に携わった。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	平良　隆行	所　属	医学部　医学科	職　名	特命講師

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.40	臨床で、実習中の学生および研修医に対し、救急科特有の患者の疾患の鑑別、および初期診療、治療について指導する。また、今後の救急部の後期研修で、他県の高度救命センターおよび3次救急センターとの連携強化に貢献する。	0.40	後期研修医および初期研修医に対して、臨床を基に適切にフィードバックを行い、患者管理および手技における注意すべき点について指導した。
研究	0.30	救急医学会総会、および集中治療学会などの参加、発表を積極的に行い、初期研修医を含めた研修医の発表も積極的に行う。また科研費申請も行い、採択を目指す。	0.30	日本救急医学会および集中治療医学会に参加し、日本救急医学会においては初期研修医発表の指導を行った。
社会貢献	0.20	各地域の市中病院救急科と連携し、週一回程度をめどに勤務し地域医療の発展に寄与する。	0.20	地域の救急病院で診療を行った。
管理運営	0.10	新病院における高度救命センターのシステム構築等に寄与する。	0.10	新病院設立の会議に参加した。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	冨加見　昌隆	所　属	医学部付属病院救急部	職　名	特命助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	救急外来・救急病棟で外来／入院患者の診察を通して、医学生・研修医の指導を行う	0.30	救急外来での診察を通して、医学生・研修医の指導を行った
研究	0.30	大学院生としての研究を継続	0.30	大学院生としての研究を継続中
社会貢献	0.05	講演の実施 スポーツ大会等に医療担当として参加	0.05	研究会での発表・キッズトライアスロン大会に医療担当として参加した
管理運営	0.05	医局活動の一端を担う	0.00	委員会等の役割は担当なし
診療	0.30	救急外来・救急病棟で外来／入院患者の診療業務	0.35	救急外来・救急病棟で外来／入院患者の診療業務
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	古波蔵　健太郎	所　属	医学部　附属病院　血液浄化療法部	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.20	腎疾患の授業内容をブラッシュアップする。PBLに沿った視点を各講義にとりいれ実践的な内容にしていく。自立学習支援の視点から教育内容を見直す（系統だったカリキュラム,シラバス整備、教育手法の確立)、専門医資格取得のためのサポート、臨床研究指導、大学院生の研究指導を行う	0.20	腎疾患の見方、考え方のフレームワークを示し、フレームワーク上に各授業の対応関係を示す事で全体像を把握しやすくした。実践的な臨床力育成を目指して治療学のシラバスを整備した。若手の臨床、研究に対して具体的な指示を与えルと共に中長期的な目標を一緒に考えて目標達成にむけて支援を行った。
研究	0.30	慢性腎臓病における細動脈の研究に加えて残存ネフロン数と糸球体高血圧の臨床的評価法の確立に向けた研究を進める。尿酸降下薬を用いた前向き研究、AMEDに関連した共同研究、SGLT2阻害薬、MRB, DRIに関連した臨床研究を進める。その他、臨床研究の論文投稿を進めていく。 当施設ならびに関連施設の症例を登録してコホートスタディを開始する。	0.30	細動脈のリモデリングを新たに評価し腎内RA系との関連を検討中、残存ネフロン数に関する研究も成果が出始めていて今後の研究の足がかりを築く事ができた。SGLT2阻害薬に関して論文を作成、投稿中でアクセプトの見通しで糖尿病性腎臓病の領域も開拓することができた。尿酸降下薬の前向き介入試験のフォローが近々終了する予定で亜ウル。
社会貢献	0.10	様々な講演会を通じて独自の腎障害進展抑制のためのストラテジーの啓発活動を行う。南城市のCKD対策事業と南部病院における慢性腎臓病重症化予防のプロトタイプ構築を進め沖縄県全体に取り組みを拡大する。	0.10	南城市の取り組みの成果が出ていることを確認することができた。本事業の支援デジタルツールがほぼ完成させることが出来た。本事業内でも活用している独自の治療理論に関するアルゴリズムをデジタルツールに取込みを進めていて知財化、事業化にむけた調査を依頼中である。
管理運営	0.20	血液浄化療法部スタッフならびに第三内科腎グループの医員を統括し、個々の特徴に目を向けた個別目標とグループ全体としての臨床および研究の目標設定およびその達成に向けて努力する。各個人のやりがい、達成感の向上とワークライフバランスに配慮した組織運営を目指す。血液浄化療法部において中央診療部としての安全性、サービス向上を目指した管理運営を進める。	0.20	血液浄化療法部の透析実績を大幅に伸ばすことが出来た。一方、ワークライフバランスを維持するために現場の作業効率、新人教育の仕組みを整備した。各医療職種の研究目標立案、解析支援を行い次年度の日本透析学会に演題を全ての医療職種から出すことが出来た。
診療	0.20	個々の患者の病態に基づいてSDMによる個別化医療をチームで取り組む。SDMの実践にあたって自施設のデータをまとめて患者に情報を提供できるようにする。包括的な腎代替療法を提供できるような体制を強化していく。	0.20	腎疾患患者の病態のみならず価値観、社会的な面など様々な点を個別に評価し治療効果の最大化、最適化を行う事が出来た。エビデンスとともに自施設の治療成績を提示し意思決定の支援を的確に行う事が出来た。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	金城　興次郎	所　属	医学部　医学科	職　名	特命助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.20	臨床実習生の講義では、腎代替療法の知識の習得、さらに研修医となった後にも役に立つ様な臨床に則した内容を多く盛り込んだ内容としたい。	0.20	実習生からも好評であったので、当初の目標は達成できたと考えている。次年度に向けてさらに内容のブラッシュアップを図りたい。
研究	0.20	透析患者におけるカルニチン補充療法に関しての論文の作成。	0.20	論文作成中であり、来年度前半には完成を目指したい。
社会貢献	0.10	地域関連施設の透析診療の応援を継続して行う。災害発生時には、基幹病院として迅速な患者受け入れ等の対応ができるように日頃から地域の病院やクリニックとの連携を密に行いたい。	0.10	地域関連施設の診療応援や病診連携を継続的に行い、良好な連携ができた。
管理運営	0.10	保険診療委員として当診療部の収益増に繋がるように努めたい。感染対策委員として院内感染拡大予防に努めるとともに透析患者の透析関連する感染症の予防に努めたい。	0.10	前年度と比較し透析件数は増加しており、病院収益に貢献できたと考えている。また、院内感染拡大予防にも中央診療部として迅速に対応できた。
診療	0.40	透析患者の虚血肢に対する評価・予防等を多職種で取り組めるようにしたい。透析患者の低栄養に関しては前年よりも対象患者を拡充して取り組みたい。	0.40	多職種で協力し虚血肢のスクリーニングやケアを行うことができた.今後も継続して取り組めるように努力したい。外来透析患者の低栄養スクリーニングを行い、栄養指導を定期的に実施し改善に取り組むことができた。対象患者は前年より増加した。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	西　由希子	所　属	琉球大学附属病院検査輸血部	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.15	検査輸血部ポリクリ学生へのミニレクチャー、医学科生への血液学系統講義、血液グループへ配属されたポリクリ学生とカンファレンス、患者回診、試験問題作成などを行う。	0.30	検査輸血部ポリクリ学生へのミニレクチャー、医学科生への血液学系統講義、第二内科血液グループへ配属されたポリクリ学生へのミニレクチャー、カンファレンス、患者回診、試験問題作成などを行った。
研究	0.30	ATLに関連した新たな研究を立ち上げる。	0.10	造血幹細胞移植合併症に関する基礎論文（Transpl immunol. 2019 (55)101205）を発表し、学位を取得した。ATL患者検体を用いた自然免疫に関わる新規研究の予備実験を行った。
社会貢献	0.10	外部医療機関での勤務を通じ、地域医療に貢献する。輸血認定看護師育成のための講義を行う。	0.15	外部医療機関での勤務を通じ、地域医療に貢献した。また、骨髄バンク調整医師としてドナーの面談、検査、判定などを行い、バンクドナーの骨髄採取術や管理を行った。
管理運営	0.05	輸血療法委員会	0.05	輸血療法委員会に出席した。輸血チーム医療の院内巡視の立ち上げを準備している。
診療	0.40	血液専門外来、病棟診療	0.40	血液専門外来や血液内科の病棟診療を行った。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）						
名　前	外間　昭		所　属	附属病院	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.20	系統講義，病棟回診補佐，学生・研修医への診療指導，内視鏡担当医への技術指導を行う.	0.20	系統講義，病棟回診補佐，学生・研修医への診療指導，内視鏡担当医への技術指導を行った.
研究	0.20	英文原著 1報，英文症例報告・短報 10報の採択を目指す.	0.20	責任著者として1報の英文総説，筆頭著者として5報の英文症例報告，責任著者として4報の英文症例報告の論文掲載を達成した.
社会貢献	0.10	内科教科書の依頼原稿を著す．欧米学会雑誌から依頼される論文の査読を行う.	0.10	内科教科書3冊の分担執筆を行った．欧米学会雑誌から依頼された約20編の論文の査読を行った.
管理運営	0.10	光学医療診療部部長として部の運営を行う．病院運営会議その他の委員として活動する．大学院生の指導を行う.	0.10	光学医療診療部部長として部の運営を行った．病院運営会議その他の委員として活動した．大学院生1名の指導を行った.
診療	0.40	外来診療（週1日），内視鏡検査（週3日）と入院患者回診を継続する.	0.40	外来診療（週1日），内視鏡検査（週3日）と入院患者の准教授回診を継続した.
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	金城　徹	所　属	医学部附属病院　光学医療診療部	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.25	医学部学生への臨床講義を4コマ担当する。医学科実習生や研修医には消化器病学の一般臨床を中心に教育し、当医局に入局した後期研修医や消化器病・消化器内視鏡専門医をめざす医師に対しては消化器病学以外に内視鏡の知識や技術を含め全般的に指導を行う。また、前記対象者（実習生以外）に消化器病関連学会における発表の指導を行う。	0.25	医学部学生への臨床講義やTBLの講義を担当し、医学科実習生や研修医には消化器病学の一般臨床だけでなく、モデルを使用して内視鏡機器を実際に体験してもらった。当医局に入局した後期研修医や消化器病・消化器内視鏡専門医をめざす医師に対しては消化器病学以外に内視鏡の知識や技術を含め全般的に指導を行った。また、前記対象者（実習生以外）に消化器病関連学会における発表の指導も行った。
研究	0.25	難病に該当する炎症性腸疾患患者が多く通院する当院において、厚生労働省の班会議や多施設との臨床研究に積極的に協力参入する。また、沖縄県の中でも多くの小腸カプセル内視鏡検査を行っており、炎症性腸疾患から消化管出血、感染症などの小腸疾患症例を集積し、県医学会や消化器病関連学会で報告を行う。	0.25	内視鏡検査関連や炎症性腸疾患関連の多施設との臨床研究に積極的に協力参入し、継続中である。また、沖縄県の中でも多くの小腸カプセル内視鏡検査を行っており、炎症性腸疾患から消化管出血、感染症などの小腸疾患症例を集積し、県医学会や消化器病関連学会で報告を行った。
社会貢献	0.10	班会議や多施設との臨床研究に積極的に参加し、臨床消化器病における概念や治療方針決定などに貢献できるようにする。例年通り、3月に日本消化器内視鏡学会承認の消化器内視鏡ハンズオンセミナーを沖縄県内の消化器内科医や看護師、臨床検査技師を対象に行う予定である。	0.10	2020年3月13日に日本消化器内視鏡学会承認の消化器内視鏡ハンズオンセミナーを沖縄県内の消化器内科医や看護師、臨床検査技師を対象に行う予定で調整している。
管理運営	0.10	日々の内視鏡業務が円滑に行えるように、検査前日や当日に担当医師や看護師と密に連携し、内視鏡業務運営を行っている。また、月1回の光学医療診療部小委員会を開催し、参加している。	0.10	日々の内視鏡業務が円滑に行えるように、検査前日や当日に担当医師や看護師と密に連携し、内視鏡業務運営を行った。また、定期的に光学医療診療部小委員会を開催し、情報共有を行った。また、医師のセーフティレポートの記載についても啓発した。
診療	0.30	外来業務を週1コマを周年で行っている。特に炎症性腸疾患の治療や早期消化器癌の内視鏡治療（早期食道癌・胃癌・大腸癌の内視鏡的粘膜下層剥離術）を中心に診療を行っている。内視鏡治療は年間50例以上を目標としている。	0.30	外来業務を週1コマを周年で行っている。特に炎症性腸疾患の治療や早期消化器癌の内視鏡治療（早期食道癌・胃癌・大腸癌の内視鏡的粘膜下層剥離術）を中心に診療を行っている。2019年1月から12月までの内視鏡治療件数は42件であった。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）					
名　前	前原 博樹	所　属	高気圧治療部	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.10	指導教官として学生の教育・指導・相談	0.10	指導教官としてM1学生の教育・指導・相談を適宜行った。
研究	0.20	学会での報告発表、学会誌への投稿、外部資金の獲得、他大学との共同研究	0.15	国内、国外において研究結果を報告できた。外部資金の獲得はできなかった。
社会貢献	0.10	啓蒙活動(医療従事者（国内・国外）)、教育講演（一般）	0.05	県外で医療従事者向けに講演を行った。、一般向けには達成できなかった。
管理運営	0.10	骨転移キャンサーボードの開催（当院第二外科、泌尿器科、放射線科を中心、他施設）	0.10	骨転移キャンサーボードの開催（当院第二外科、泌尿器科、放射線科を中心、他施設）
診療	0.50	診療活動(高気圧治療部、整形外科)	0.60	高気圧治療部においては保険点数改正、幅広く患者を受け入れたこともあり、大幅な増収となった。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）	□ 学外公表に同意しない。	□ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	宜野座　到	所　属	医学部　医学科	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	医学科4年生において麻酔科学系統講義やTBLチュートリアル講義を行う。また5・6年生における病院実習指導、初期研修医に対して初期臨床研修必修項目を中心とした指導を行う。麻酔専攻医に対しては、麻酔科学としての専門的な知識と技術の指導を行う。	0.30	医学科3年生には麻酔科学系統講義、医学科4年生にはTBLチュートリアル講義を行った。5・6年生における病院臨床実習における指導、初期研修医に対しては初期臨床研修必須項目を中心とした指導を行なった。麻酔専攻医に対しては講義や手技を通して麻酔科医として必要な知識と技術を指導した。
研究	0.10	麻酔専攻医の学会発表、論文作成の指導を行う。また現在、症例報告の論文投稿中である。	0.10	本年度、1編の症例報告の論文掲載決定、2回国内の学会発表を行なった。また麻酔専攻医の学会発表、論文作成の指導を行った。また症例報告1編論文投稿中である。
社会貢献	0.10	地域の関連施設に定期的に出向し、関連施設の医師・看護師に対する技術指導及び教育を行い、地域住民への医療技術の還元を行う。	0.10	週一回、地域の関連施設に定期的に出向し、安全な麻酔医療の提供を行った。また関連施設の医師・看護師に対し技術指導及び教育を行い、地域住民への医療支援及び医療技術の還元を行なった。
管理運営	0.10	手術件数の増加や緊急手術にも対応し安全かつ効率的な手術室運営を行うため医師・看護師・臨床工学技士と協力し手術室運営を行う。また医療材料委員として手術室運営に貢献する。	0.10	安全かつ効率的な手術室運営を行うため医師・看護師・臨床工学技士と協力し手術室運営を行った。また医療材料委員として手術室運営に貢献した。
診療	0.40	附属病院手術室において麻酔業務に専従し、患者さんにとって高度で安全な医療技術を提供できるよう心掛ける。特にロボット手術、TAVIのハートチームとして中心的役割を果たせるよう努力する。	0.40	本年度の麻酔管理件数は過去最高であった。その中で手術室の安全性の向上及び効率化の向上に他職種と協力し取り組み、患者さんにとって高度で安全な医療技術を行なった。特にロボット手術、TAVIのハートチームとして中心的に関わった。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）					
名　前	大城　匡勝	所　属	医学部　医学科	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	医学部での系統講義ならびにM5、M6への病院臨床実習における指導を行う。初期研修医に対してはマンツーマンにて術前回診から術後回診までを系統的に指導を行い麻酔学を通じて医師としての基本的なあり方を習得させるようにする。後期研修医に対しては麻酔学総論から各論までを日々の症例を通じで系統的に学習できる環境を構築し、その実践をサポートする。	0.30	医学部での系統講義ならびにM5、M6への病院臨床実習における指導を行う。初期研修医に対してはマンツーマンにて術前回診から術後回診までを系統的に指導を行い麻酔学を通じて医師としての基本的なあり方を習得させた。後期研修医に対しては麻酔学総論から各論までを日々の症例を通じで系統的に学習できる環境を構築し、その実践をサポートさせた。
研究	0.15	後期研修医と共に臨床で得られた新たな知見をもとに学術集会、学術誌等で発表を行い、論文作成のサポートを行う。	0.15	後期研修医と共に臨床で得られた新たな知見をもとに学術集会、学術誌等で発表を行い、論文作成のサポートを行った。
社会貢献	0.20	地域の関連施設に週一回出向し、関連施設の医師及び看護師に対し、技術指導及び教育を行い、地域住民への医療支援及び医療技術の還元を行う。	0.20	地域の関連施設に週一回出向し、関連施設の医師及び看護師に対し、技術指導及び教育を行い、地域住民への医療支援及び医療技術の還元を行った。
管理運営	0.25	手術室の効率的運営を行えるように、手術室看護師、外科系医師と協力し、手術室稼働の調整を行う。	0.25	手術室の効率的運営を行えるように、手術室看護師、外科系医師と協力し、手術室稼働の調整を行った。
診療	0.10	附属病院手術室にて業務に専従し、手術を受ける患者に対して安全で高度な医療を提供しつつ術後の回復をサポートする。	0.10	附属病院手術室にて業務に専従し、手術を受ける患者に対して安全で高度な医療を提供しつつ術後の回復をサポートした。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）	□ 学外公表に同意しない。　□ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	野口　信弘	所　属	医学部　医学科	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	2.00	学生が積極的に参加できるように講義の工夫を行う。ポリクリ実習学生に対し、当科の役割や面白さを伝え実習指導を行なう。学生および研修医に対し、今後の進路に関する情報を与え指導を行う。	2.00	ポリクリ実習、臨床研修に際しては、実際に参加させ実習、研修に興味を持たせるように行った。また後期研修医、学生への講義をスライド作成に工夫を行い興味が持てる様に行った。
研究	2.00	臨床研究および基礎研究を通して、医学・医療の発展に貢献できる結果を学会および論文として公表する。	2.00	症例報告の学会発表、学術誌への投稿を行った。新たな臨床研究の企画、立案、倫理委員会への申請、承認をサポートした。
社会貢献	1.00	地域の関連施設に週1回出向し、関連施設の医師及び看護師に対し、技術指導及び教育を行い、地域住民への医療支援及び医療技術の還元を行う。	1.00	地域の関連施設での麻酔指導及び教育を行った。また医局長として地域の病院からの麻酔科医の派遣依頼を受け調整を行った。
管理運営	3.00	手術室の効率的運営を行えるように、看護師、外科系医師と協力し、手術室稼動の調整を行う。また医局長として医局長会議に、リスクマネージャーとして医療安全に関する各種会議に参加し医療安全に貢献する。手術部副部長の決定まで手術部職員として各種委員会に参加する。医療ガス責任者として点検簿の管理をし、委員会に出席する。	3.00	週間手術予定の作成を行い手術室看護師や外科系医師との調整を行い効率的な手術室運営を行うことができた。麻酔科および手術部のリスクマネージャーとして医療安全に関する各種会議等に参加し医療安全に貢献した。
診療	2.00	附属病院手術室において麻酔業務に専従し、手術数増加のために貢献する。手術を受ける患者に対し、安全で高度な医療を提供する。	2.00	手術室の効率的運営により、昨年より手術数の増加を図ることができた。また、安全に手術麻酔を施行し、大きな問題なく施行できた。
計	10.00		10.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	吉田朝秀	所　属	医学部附属病院周産母子センター	職　名	講師

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.20	学部担当科目（未熟児新生児）を担当し、系統講義、クリニカルクラークシップ医学生に対してベッドサイドティーチング等を行う。初期研修、小児科専攻医のへの研修指導、シミュレーション教育を行なう。	0.20	系統講義、クリクラ学生に対してベッドサイドティーチング等を行った。初期研修、専攻医のへの研修指導を行った。研修医対象のシュミレーション教育の講師を務めた。研修医、学生の小児医療、周産期医療への関心喚起のため説明会を開催した。新専門医制度の小児科学会としての啓発活動やプログラム作成に従事した。
研究	0.20	小児科・新生児医療に関する学会活動、研究論文の投稿を行う。スタッフの学会参加や研究発表を支援する。科研費などの外部資金の獲得のため積極的に申請する。	0.20	周産期新生児学会に研究内容を発表。和文英文専門学会誌の査読を行なった。沖縄小児科学会、沖縄新生児研究会等へ参加し、研修医の学会発表を支援した。国内専門学会誌に症例報告等論文を投稿し受理された、英語研究論文を投稿し受理された。
社会貢献	0.10	沖縄県周産期ネットワーク活動を通して地域の周産期医療の充実に貢献する。継続して新生児蘇生法のインストラクターとして普及活動に従事する。沖縄県医療計画の部会に委員として参画する。小児保健協会等の公益に関わる団体の理事等として活動する。	0.10	沖縄県第7次医療計画策定合同部会に委員として活動。沖縄県周産期ネットワーク協議会委員、新生児蘇生法インストラクターとして活動。小児保健協会、医師会学校医部会、小児科学会の理事、幹事として活動した。
管理運営	0.10	各種委員会、その他の会議に参加し管理運営に貢献する。	0.20	集中治療部、周産母子センター、輸血療法委員会、保険診療委員会、脳死判定委員会WG、虐待対応委員WGなど病院運営等に関わる会議に参加した。新病院計画の複数のWGに参加した。
診療	0.40	附属病院での診療を通して健康維持に貢献し未熟児医療の改善を目指す。市中病院、乳児健診を通して情報の収集と診療技術の向上をめざす。	0.30	周産母子センターで未熟児新生児医療に従事した。市中での救急診療、乳児健診に従事した。予防接種施行などに際してアドバイス、講義を行うなど貢献した。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	銘苅　桂子	所　属	医学部付属病院周産母子センター	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.20	1. 講義/チュートリアルの充実(学生自身が考えて理解するスタイルへ) 2. 生殖医療専門医の育成 3. 腹腔鏡技術認定医の育成 4. 研修医、後輩医師の教育、学会発表論文投稿の指導 5. 胚培養士の育成・胚培養士認定資格の取得へ向けての教育 6. 女性医師支援としての活動（学生・研修医・産婦人科学会での講演など）	0.25	1. 充実した講義/チュートリアルが実施できた。 2. 生殖医療専門医の育成を行い、現在1名が受験結果まちである。 3. 腹腔鏡技術認定医の育成を行い、今年は2名が受験予定である。 4. 研修医、後輩医師の教育、学会発表論文投稿の指導を行った。 5. 胚培養士の育成・胚培養士認定資格の取得へ向けての教育を行った。 6. 女性医師支援としての活動（学生・研修医・産婦人科学会での講演など）を行った。
研究	0.20	1. 科学研究費補助金による研究の実施 2. 学会誌への投稿、発表 3. 国際・国内学会での発表 4. 他大学との共同研究の推進	0.15	1. 科学研究費補助金による研究を実施した。 2. 学会誌への投稿、発表を行った。 3. 国際・国内学会での発表を行った。 4. 三重大学との共同研究を開始した。
社会貢献	0.20	1. 県医師会女性医師部会委員としての活動 2. 学外での産婦人科疾患の啓発活動 3. 日本産科婦人科内視鏡学会幹事、日本生殖医学会代議員としての参画	0.20	1. 県医師会女性医師部会委員としての活動を行った。 2. 学外での産婦人科疾患の啓発活動を行った。 3. 日本産科婦人科内視鏡学会幹事、日本生殖医学会代議員としての参画を行った。
管理運営	0.15	1. 学部内委員会出席 2. 体外受精・胚移植施行施設としての学会への報告・管理 3. 日本生殖医学会専門医認定施設としての学会への報告・管理 3. 日本産科婦人科内視鏡学会技術認定施設としての学会への報告・管理 4. 医局長としての活動	0.20	1. 学部内委員会出席し、医局長としての調整を行った。 2. 体外受精・胚移植施行施設としての学会への報告・管理を行った。 3. 日本生殖医学会専門医認定施設としての学会への報告・管理を行った。 3. 日本産科婦人科内視鏡学会技術認定施設としての学会への報告・管理を行った。 4. 医局長としての活動を行った。
診療	0.25	1. 安全に十分配慮した医療 2. 患者さんへの説明と同意を十分に得て行う医療 3. 生殖・内分泌治療成績の向上 4. 腹腔鏡下手術件数の増加 5. 腹腔鏡手術適応症例の拡大（悪性腫瘍に対する腹腔鏡手術を安全に行う）	0.20	1. 安全に十分配慮した医療を実施した。 2. 患者さんへの説明と同意を十分に得て行う医療を行った。 3. 生殖・内分泌治療成績の向上を実現した。 4. 腹腔鏡下手術件数は増減ないが、後輩の指導にあたった。 5. 悪性腫瘍に対する腹腔鏡手術を安全に行うための臨床研究を開始した。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	呉屋英樹	所　属	医学部附属病院　周産母子センター	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.20	学生への講義やシミュレーション実習など	0.20	概ね予定通りで実行できた
研究	0.20	学会発表や論文作成など。科研費の提出も検討	0.10	学会発表は実行できた。論文、科研費は実行できなかった。
社会貢献	0.10	新生児蘇生の普及など	0.10	予定通り実行できた
管理運営	0.10	周産母子センター運営の委員会活動など	0.10	リスクマネージャー、感染対策など実行できた
診療	0.40	NICU、外来診療	0.50	予想以上に外来、入院診療が多かった
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	新田　迅	所　属	琉球大学附属病院周産母子センター	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.60	シミュレーターを用いて、医学部実習生の産婦人科に対する勉学のモチベーションを最大限高められるような環境整備を整える	0.40	シミュレーションセンターの利用可能時間が去年より早くなったため(16時まで)、去年ほど回数を重ねられなかった。
研究	0.30	分娩に対する当科の研究（音楽療法）をより推し進める	0.25	研究自体は徐々にデーターが集まっているが、まだ不充分。
社会貢献	0.05	本業である医療で社会に僭越ながら貢献できるように日々精進する	0.30	医師が一人休職したことにより、外来診療やオンコール等の負担が増えたが、患者に迷惑をかけることはなく本業を全う出来た。
管理運営	0.05	定められた各種運営会議に出席する	0.05	去年同様、多忙につき出席出来ないこともあったため例年通り。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	渕上　竜也	所　属	医学部　附属病院	職　名	講師

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.25	学生・研修医・看護職員を対象に、院内最重症例を収容するICUスタッフを指導・養成するために呼吸・循環・代謝といった重要臓器の臓器障害の診療に関する知識・技術の教育を行う。人工呼吸や持続透析など生命維持装置の取り扱いを含む医療安全の啓蒙をおこなう。麻酔・集中治療領域の専門家を目指す学生、研修医、看護師に対し最適な進路選択ができるように教室のもつ研修関連施設にとどまらない情報提供を行う。新専門医制度に則した診療環境を整備し集中治療領域での専門医や専門・認定看護師の育成をサポートする。	0.25	学生・研修医・看護職員を対象に、呼吸・循環・代謝といった重要臓器の臓器障害の診療に関する知識・技術に関する講義を行った。人工呼吸や持続透析など生命維持装置の取り扱いを含む医療安全の啓蒙を看護師・臨床工学技士を含む新人職員に行った。麻酔・集中治療領域の専門家を目指す学生、研修医、看護師に対し最適な進路選択ができるように教室のもつ研修関連施設にとどまらない情報提供を行った。新専門医制度に則した診療環境を整備し集中治療領域での専門医や専門・認定看護師の育成をサポートする。
研究	0.15	当院集中治療部におけるPMX-DHPの敗血症治療への有効性を新たに提唱された敗血症診断基準を用いて検証した成果を論文発表する。新しい人工呼吸モード（適応補助換気など）を用いた人工呼吸管理や肺保護換気で注目されている経肺圧モニタリングに関する研究を継続し当該学会での発表や論文作成を行う。	0.15	当院集中治療部におけるPMX-DHPの敗血症治療への有効性を新たに提唱された敗血症診断基準を用いて検証した成果を論文発表する。新しい人工呼吸モード（適応補助換気など）を用いた人工呼吸管理や肺保護換気で注目されている経肺圧モニタリングに関する研究を継続し当該学会での発表や論文作成を指導した。
社会貢献	0.20	県下の麻酔科医不足の医療機関への派遣によって、安全な術中管理に貢献する。国内トップクラスの活動性と充足度を誇る沖縄県のクリティカルケア領域において唯一の大学病院集中治療室として積極的に情報提供し地域の医療レベルの向上に努める。具体的には大学内での診療経験や研究から得られた知見を内外の麻酔科・集中治療領域の医師だけでなくコメディカルなどの医療従事者にも講演する機会を積極的に持つ	0.20	県下の麻酔科医不足の医療機関への派遣によって、安全な術中管理に貢献する。国内トップクラスの活動性と充足度を誇る沖縄県のクリティカルケア領域において唯一の大学病院集中治療室として地域の医療レベルの向上を目的にコメディカルなども対象とした医療従事者にも院外研究会を企画し実施した。
管理運営	0.15	部署リスクマネージャー（ICU）、医療機器安全管理委員会、輸血療法委員会等院内各種委員会の活動に貢献する。ME副センター長の職責を果たす。病院移転準備について担当部会で積極的に活動し新病院の機能強化の基盤を整備する。平成30年度診療報酬改訂に則した診療環境を整備を行う。	0.15	部署リスクマネージャー（ICU）、医療機器安全管理委員会、輸血療法委員会等院内各種委員会の活動に貢献する。ME副センター長の職責を果たす。病院移転準備について担当部会で積極的に活動し新病院の機能強化の基盤を整備する。平成30年度診療報酬改訂に則した診療環境を検証・整備した。
診療	0.25	院内の手術麻酔、集中治療に従事し安全な周術期管理に貢献する。県内唯一の大学病院の集中治療室として補助人工心臓植込みやTAVIの周術期管理など先進・高度で専門性の高い診療を行う。県内唯一の急性血液浄化学会認定施設として、高度なアフェレーシス治療を安全に実施する基盤を維持する。	0.25	院内の手術麻酔、集中治療に従事し安全な周術期管理に貢献する。県内唯一の大学病院の集中治療室として補助人工心臓植込みやTAVIの周術期管理など先進・高度で専門性の高い診療を行った。県内唯一の急性血液浄化学会認定施設として、高度なアフェレーシス治療を安全に実施する基盤を維持した。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	平田哲生	所　属	医学部附属病院	職　名	特命教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.10	指導教員として修学支援を行う。 M3,4の情報セキュリティー講義の充実。	0.10	指導教員として、学生の修学支援を行った。 M3,4に対し合計7回のセキュリティイー講習を行った。
研究	0.20	糞線虫症に関する臨床研究の遂行。 英文誌への論文投稿1編以上行う。 学会での報告発表を1回以上行う。 科研費等外部資金の獲得。	0.10	糞線虫症に関する臨床研究を継続した。また、クリニカルパスに関する共同研究を開始した。 英文誌への投稿、科研費等の獲得は未達成であった。
社会貢献	0.10	学外の研究会への参加・発表を行う。 他施設での講演・講義を行う。	0.05	学外での講演、講義については十分行った。 おきなわ津梁ネットワーク実行委員として貢献した。
管理運営	0.50	病院長補佐として、医療の質向上に努める。 病院情報システムの管理運用を改善。 診療情報管理の徹底 医師事務作業補助者の充実と運用改善。	0.70	医療の質・経営向上に向けて、診療情報の2次利用を進めている。 病院情報システムの改修等を行い、運用を改善した。 診療記録質的監査を充実させた。 医師事務作業補助者の研修を充実させた。
診療	0.10	外来診療の継続	0.05	消化器内科外来を週に1回担当した。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1） 本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	山本　俊成	所　属	医療情報部	職　名	講師

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.00	・CBTマネージャ（主担当）	0.05	・CBTマネージャ（主担当）で、本番試験2回、追試1回を行った。
研究	0.00	・研究支援におけるデータ提供に関するIT技術および仕組の利活用 ・病院情報システムにおけるデータの可視化	0.30	・AMED研究に研究協力者として関連するシステムの情報セキュリティー強化と研究用データ提供サーバ等の仮想基盤を計画した。 ・病院情報システムにおけるデータの可視化は、外国人患者の分析を行い、第4回国際臨床医学会で発表した。
社会貢献	0.00	・医療情報学会の実行委員 ・医療情報学会九州沖縄支部会幹事 ・沖縄国際医療コーディネーターの連絡体制の推進	0.05	・第23回春季医療情報学会の実行委員を行った。 ・医療情報学会九州沖縄支部会幹事 ・沖縄国際医療コーディネーターの連絡体制の推進は、県内病院の関連研究会に参加した。
管理運営	0.00	・総合情報処理センターと院内学術用ネットワークの管理運営 ・病院情報公開サイトの管理運営 ・病院情報公開サーバの脆弱性の検知および対処 ・部門系システムと電子カルテの一元管理の推進 ・電子カルテのインターネット環境の活用および管理 ・システム導入や医療機器購入に関する仕様策定の参画 ・移転推進における関連ワーキンググループの参画 ・経営企画室の室長補佐を務める ・外国人患者受入に係るプロジェクトチームの副チーム長を務める ・次期病院情報システム更新のワーキンググループリーダ（2）を務める ・感染対策室室員の責務を果たす ・感染対策実務者会議に参加する ・リスクマネジャー会議に参加する ・病院業務改善等に係わるデータ分析の支援 ・研究および新事業形成におけるデータ提供の支援 ・各種委員会の参加（5） ・各種学外会議に参加する（2）	0.60	・総合情報処理センターと院内学術用ネットワークの管理運営 ・病院情報公開サイトの管理運営 ・病院情報公開サーバの脆弱性の検知および対処 ・部門系システムと電子カルテの一元管理の推進 ・電子カルテのインターネット環境の活用および管理 ・システム導入や医療機器購入に関する仕様策定の参画 ・移転推進における関連ワーキンググループの参画 ・経営企画室の室長補佐を務める ・外国人患者受入に係るプロジェクトチームの副チーム長を務める ・次期病院情報システム更新のワーキンググループリーダ（2）を務める ・感染対策室室員の責務を果たす ・感染対策実務者会議に参加する ・リスクマネジャー会議に参加する ・病院業務改善等に係わるデータ分析の支援 ・研究および新事業形成におけるデータ提供の支援 ・各種委員会の参加（5） ・各種学外会議に参加する（2）
	0.00		0.00	
計	0.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙１）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	有賀　拓郎	所　属	医学部附属病院　診療情報管理センター	職　名	特命講師

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.20	・放射線治療の適応の教育 ・電子カルテ利用者に対する医療情報保護の重要性	0.20	・放射線治療の適応に関して、十分な教育が行えた。 ・電子カルテの利用に際して、適切な情報保護の教育が行えた。
研究	0.30	・JCOG1408肺定位照射に関する多施設共同研究への症例登録 ・JCOG1402子宮頚癌術後照射に関する多施設共同研究への症例登録 ・クリニカルパスデータを活用したCI選定	0.20	・JCOG1408の症例登録が行えた。 ・クリニカルパスやDPCデータを利用したCIの解析業務を開始した。
社会貢献	0.30	・他病院/他診療科への放射線治療の具体案の提示。特に医師会が主催するおきなわ津梁ネットワークにビデオチャット機能を実装するための検証実験を通して、地域格差を是正する事業を立ち上げる	0.25	・医療福祉支援センターを通して、近隣50の医療施設・関係役所を巻き込み、”連携室の連携”を立ち上げた。本年内で3回の講演会を行い、延べ100名程度の参加者が集まる見込みである。
管理運営	0.10	・高精度放射線治療の標準化/開始の迅速化 ・放射線治療専門医の育成（特に新専門医制度に準拠したカリキュラム） ・診療情報管理センター及び医療福祉支援センターの管理運営に関わる業務	0.25	・放射線治療専門医を1名輩出した。 ・クリニカルパスの新規作成、バリアンスを利用した見直しを行い、業務改善に努めた。また、院内クリニカルパス大会、地域クリニカルパス大会を実施した。
臨床	0.10	・高精度放射線治療の適応増加 ・小線源治療の標準化 ・緩和照射の適応増加 ・新規リニアックの導入	0.10	・新規リニアックの導入を行い、順調な集患と業務フロー形成を行った。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	原永修作	所　属	附属病院　総合臨床研修・教育センター	職　名	特命准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.50	研修医のキャリア支援（ローテーションおよび専門医プログラムの情報提供） 医学生のキャリア支援（特に地域枠学生） 2020年度の初期研修医獲得数の増加に向けた取り組みを行う 医学生、研修医のシームレスな教育、評価システムの構築 看護師特定行為研修の指導	0.50	研修医へのキャリア支援（年2回以上の個別面談など）をおこなった 医学生のキャリア支援（新しい研修制度の説明）を行った 2020年度の初期研修医獲得数の増加に向けた取り組みを行った 医学科生の呼吸器および感染症の系統講義を担当 看護師特定行為研修の指導・評価を行った
研究	0.10	当院における抗インフルエンザ薬使用状況の後方視的検討 インターフェロンγ遊離アッセイの判定不可症例の背景の検討 沖縄県における呼吸器疾患患者の連携に関する対策の評価	0.10	沖縄県における呼吸器疾患患者の連携に関する対策の評価を行った びまん性肺疾患における気管支肺胞洗浄液の有用性の解析を行った 薬剤性肺炎における気管支洗浄液の有用性に関する検討で大学院生の論文作成を指導した
社会貢献	0.10	喘息、COPDに関する市民公開講座の企画、運営 医師会主催（共催）講演会や地域向け講演会等で非専門医、患者に対して教育を行う	0.10	喘息、COPDに関する市民公開講座を開催（19年12月21日）した 県内の薬剤師や看護師を対象とした吸入薬の講習会を開催した
管理運営	0.10	医療安全管理委員会委員として院内の医療安全に取り組む 診療情報管理センター副センター長として診療情報管理に寄与する 医学教育評価委員会委員として医学教育の改善に積極的に関わる	0.10	診療情報管理センター副センター長として診療録相互評価をマネジメントした 医療安全管理委員会委員として院内の医療安全に取り組んだ
診療	0.20	外来診療 病棟コンサルト 呼吸ケアチーム回診での定期開始を行う	0.20	毎週火曜日の呼吸器・感染症外来を担当した 病棟コンサルトを適宜受けた 毎週水曜日の呼吸ケアチーム回診を行い、看護師向けの勉強会を開催した。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙１）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	川妻由和	所　属	医学部附属病院　沖縄県地域医療支援センター	職　名	特命准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.70	①地域枠学生および卒業医師、県医師確保修学資金等被貸与医師と面談を実施し、学習支援並びに本人の意向を尊重したキャリア支援を行う。②医学概論（M1前期）、医学外国語（M2前期）講義、沖縄特色科目（M3）チューター、公衆衛生学調査研究指導を分担担当する。③M3学生離島地域病院実習、M1地域医療実習、学生企画　地域医療を学ぶための学生セミナー（医学教育企画室主催）、離島医療体験(県主催）にて学生教育および実習指導を分担担当する。④救急部で臨床実習中の学生に教育および実習指導を行う。	0.65	①地域枠学生および卒業医師、県医師確保修学資金等被貸与医師と面談を実施し、学習支援並びに本人の意向を尊重したキャリア支援を行なった。②医学概論（M1前期）、医学外国語（M2前期）講義、沖縄特色科目（M3）チューター、公衆衛生学調査研究指導を分担担当した。③M3学生離島地域病院実習、M1地域医療実習、学生企画　（医学教育企画室主催）、離島医療体験(県主催）にて学生教育および実習指導を分担担当した。④救急部で臨床実習中の学生に教育および実習指導を行った。
研究	0.05	沖縄県における医師不足状況、医師の地域偏在、地域医療教育等に関する研究を行ない、その成果を学会・研究会等で発表するとともに、論文化を図る。	0.10	①沖縄県における医師偏在指標に関する研究成果を沖縄県医師会医学会総会にて発表するとともに、論文投稿し現在査読中である。②離島診療所実習前後における医学生の地域医療に関する自己効力感の変容に関する研究成果を第10回プライマリケア連合学会学術集会にて発表した。③第29回九州農村医学会シンポジウム依頼演題「沖縄県の地域医療構想について」を発表した。④日本プライマリケア連合学会沖縄県代議員を務めた。⑤日本プライマリケア連合学会九州支部総会・学術集会にて座長を依頼されている。
社会貢献	0.05	①関係諸機関と連携し、地域に必要とされる医療の確保に努める。 ②全国地域医療教育研究会、九州地域医療教育研究会へ参画 ③高校等における入試説明会へ参画し、地域枠制度の周知に努める。　④第７次沖縄県医療計画のへき地医療部会に構成員として参画	0.05	①関係諸機関と連携し、地域に必要とされる医療の確保に努めた。②全国地域医療教育研究会、九州地域医療教育研究会へ参画した。③八重山・宮古・久米島高校における交流会に参画し、地域枠制度の周知に努めた。④第７次沖縄県医療計画のへき地医療部会に構成員として参画した。
管理運営	0.10	センター長の統括のもと、沖縄県地域医療支援センター業務を総括する。	0.10	センター長の統括のもと、沖縄県地域医療支援センター業務を総括した。
診療	0.10	週一回程度、救急部の診療に従事する。	0.10	週一回程度、救急部の診療に従事した。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	中島　信久	所　属	琉球大学医学部附属病院　地域医療部	職　名	特命准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度／令和元年度自己点検結果
教育・学生支援	0.10	【医学部教育】学生講義（M4、5）、ペイン緩和実習（M4/5、毎週3名程度） ・医学科1年生の担当教員 【スタッフ教育】薬剤部、栄養管理部など、緩和ケアに携わるスタッフを対象とした勉強会の定期開催	0.10	【医学部教育】医学科学生への講義（M4/5）、ペイン緩和実習（×1/週）に加えて、保健学科での講義や大学院教育（がんプロフェッショナル養成プラン）を行った。 ・医学科1年生の担任として、定期ミーティングや随時対応を行った。 【スタッフ教育】コメディカルスタッフ（薬剤師、管理栄養士など）に対して、定期勉強会に加えて、on the job trainingを継続的に実施した。
研究	0.15	【文科研（研究代表者）】がん患者の死前喘鳴に対する薬物療法の効果を推定するための全国レジストリ研究(H29-31)･･･① 【厚労科研（研究分担者）】将来に亘って持続可能ながん情報提供と相談支援の体制の確立に関する研究(H29-31)･･･② 【厚労科研（研究分担者）】診療ガイドラインの今後の整備の方向性についての研究(H30-31)･･･③ 【論文投稿】英文誌（peer reviewあり）に2編以上 【学会発表】6回以上（国際学会発表2回以上を含む）	0.15	【科研費】左記の文科研1件(①：H29-31）と厚労科研2件（②：H29-31、③：H30-31）は当初の計画に則って順調に進捗している。②の成果をもとに、2020年度の厚労科研に「がん情報提供体制の整備」に関する新規研究を申請した。 【論文】国際誌(peer reviewあり：PubMed収載）に7編採択された（JPM×2, AJHPM, Oncologist, JJCO, Cancer Med, Nutr Cancer)。 その他、英国のtextbook(Intech）に緩和ケアに関して1章執筆 【国際学会発表】 2件：European Association for Palliative Care （Switzerland） 【全国学会発表】 10件：JSCO, JSPM, JSPEN,他（うち、シンポジウム・講演；5件）
社会貢献	0.15	①日本緩和医療学会：代議員、ガイドライン統括委員会（副委員長）、倫理・利益相反委員会委員 ②日本癌治療学会：　代議員、ガイドライン統括委員会（専門委員） ③日本静脈経腸学会：代議員、臨床研究委員 ④日本サイコオンコロジー学会：代議員 ⑤日本口腔ケア学会：代議員、ガイドライン委員会（緩和ケア） ⑥日本医学会連合：ガイドライン統括委員会委員 ⑦沖縄緩和ケア研究会（2019.4月発足）：代表世話人 ⑧沖縄県における「緩和ケアの均てん化」を目的とした「離島・地域緩和ケアWEBセミナー」代表（石垣、宮古を含む県内10か所同時開催：3か月毎） ⑨県内の緩和ケアのリーダー育成を目指したアドバンスセミナー（EBMに則った緩和ケアの習得と実践を目指す勉強会）代表（3か月毎に開催） ⑩Integration of Oncology and Palliative Careを目指したESMO-DC（欧州臨床腫瘍学会のプログラム）への琉大病院の認証申請 ⑪沖縄県がん診療連携協議会・緩和ケア在宅医療部会	0.15	①-⑥、⑪における活動を継続している。 ⑤**日本口腔ケア学会**において、今年度より**理事**ならびに**ガイドライン統括委員会委員長**に就任した。 ⑦沖縄緩和ケア研究会を代表世話人として立ち上げた。11月に第1回学術集会を大会長として開催した。 ⑩：**ESMO-DCの施設認定**を取得した。これは欧州臨床腫瘍学会（ESMO)ががん治療と緩和ケアの統合（Integration of Oncology and Palliative Care：IOP)を高いレベルで行っている施設に対して認定を行うもので、現在、世界41か国で約200施設が認定されている。琉大病院はわが国の大学病院として初めて認定された。 この件に関して、大学ホームページへの掲載、プレスリリース、学長記者懇談会でのプレゼンテーションなどを通して、学外への情報発信を行った。 今後、琉大病院を拠点として、"ALL OKINAWA"で質の高いIOPを実践することを目指していく。そのうえで、全国に向けて"from OKINAWA"の取り組みを発信していく。
管理運営	0.10	①緩和ケア関連： 1) 多職種協働によるチーム活動の構築 2) 緩和ケアセンター運営WGの定期開催～緩和ケア領域の診療加算請求の効率的な実施、がん診療連携拠点病院としてのタスクの遂行を目指す ②栄養サポート関連： ・栄養サポートチームのコアとなるスタッフの育成に向けた準備（日本静脈経腸栄養学会認定医など）	0.10	①-1：多職種協働によるチーム活動の構築；「緩和・精神ラウンド」や「緩和・栄養ラウンド」により、多職種連携によるチーム活動を実践している。 ①-2：緩和ケア診療加算請求件数の安定した増加が得られた（100-150件/月）。がん疼痛指導管理料加算請求に向けて、各医局でのプレゼンを行った。 ②：NST活動再開に向けて、スクリーニングのシステム整備ならびにコアNST活動を含めた体制整備を行っている（2020.4月始動予定）。
診療	0.50	①緩和ケアチーム活動；既存の定期カンファレンス・ラウンドに加えて、「緩和・精神ラウンド」「緩和・栄養ラウンド」の定期実施 ②栄養サポートチーム活動 緩和医療専門家として臨床、研究、教育の立場から、琉球大学病院、沖縄県、日本の緩和医療、がん医療の普及発展に努める	0.50	①：従来の緩和ケアラウンドに「緩和・精神ラウンド」（火曜午前）、「緩和・栄養ラウンド」（木曜　午前）を加えた包括的緩和ケアチームラウンドを定期的に行っている。 ②：コアNST活動が休止中であり、次年度に向けて体制整備を進める一方で、「緩和・栄養ラウンド」により栄養管理加算の上乗せを行った（20-30件/月） 前述のESMO-DC認定取得を契機に、沖縄における緩和ケア・がん治療の質の向上～沖縄から全国に向けての発信を進めていく基盤整備を始めることができた。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	武村　克哉	所　属	医学部附属病院地域医療部	職　名	講師

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.25	・医学科2年次地域医療／プライマリ・ケア教育科目の計画・実施 ・医学科2年次循環器系症候学Ⅰ・Ⅱ講義の実施 ・医学科4年次TBL「浮腫／心不全」講義の実施 ・医学科4年次BPE医療面接実習の計画・実施 ・医学科4-5年次地域医療臨床実習の計画・実施 ・附属病院総合診療センターでの医学科4-5年次学生に対する外来教育 ・附属病院研修医に対する共通研修カリキュラムの計画・実施 ・臨床研修指導医に対する講習の計画・実施 ・地域医療・総合診療に関心のある学生の支援	0.20	・卒前地域医療／プライマリ・ケア教育に関する講義（医学科2年次地域医療/プライマリ・ケア講義9コマ）の計画・実施、・医学科2年次循環器系症候学Ⅰ・Ⅱ講義の実施、医学科4年次TBL「浮腫／心不全」講義の実施、医学科4年次医療面接実習の計画・実施、医学科4-5年次地域医療臨床実習の計画・実施、・附属病院総合診療センターでの医学科4-5年次学生に対する外来教育、研修医に対する共通研修カリキュラムの計画・実施、臨床研修指導医養成セミナーでの講習を実施した。地域医療研究会所属学生の第10回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会(2019年5月)でのポスター発表支援を行った。
研究	0.10	・地域医療・総合診療に関する研究、学会発表 ・臨床研修指導医養成の評価に関する研究、学会発表	0.05	・第51回日本医学教育学会（2019年7月）にて、「通年の指導医養成プログラム「ハワイ-沖縄医学教育フェローシップ」の取り組み」を演題発表した。
社会貢献	0.05	・沖縄プライマリ・ケア研究会への参画（幹事担当） ・全国地域医療教育協議会への参画（代議員担当）	0.05	・沖縄プライマリ・ケア研究会の幹事を担当した。 ・全国地域医療教育協議会の代議員を担当した。
管理運営	0.30	・琉球大学第3期中期計画No.36実施担当者として、関係部署と協力し、地域医療機関との連携推進を図る。 ・琉球大学医学部附属病院総合臨床研修・教育センター員、初期臨床研修先島プログラム「美ぎ島」責任者として、研修プログラム・地域医療研修を調整する。 ・総合診療センター運営協議会委員として、総合診療センター外来の運営調整を行う。 ・琉球大学医学部附属病院総合診療専門研修プログラム作成・広報・専攻医募集を行う。 ・琉球大学医学部医学教育企画室員として、離島地域病院実習等、地域医療関連企画に対する支援を行う。 ・琉球大学医学部医学科教育連絡主任として、地域医療臨床実習の連絡調整を行う。 ・共用試験医学系OSCE「医療面接」副責任者として、OSCE・BPEの運営調整を行	0.35	・琉球大学医学部附属病院総合臨床研修・教育センター員、初期臨床研修先島プログラム「美ぎ島」責任者、地域医療研修担当者として、定例ミーティングに参加し、「美ぎ島」プログラムの調整、共通研修カリキュラム・地域医療研修の調整を行ない、指導医養成セミナーにてタスクフォースを担当した。総合診療センター運営協議会委員として、総合診療センター外来の運営調整を行った。琉球大学医学部附属病院総合診療専門研修プログラム統括責任者として、総合診療専門研修プログラムを作成し、広報・専攻医募集を行った。琉球大学医学部医学教育企画室員として、「地域医療を学ぶためのPBL」の資料作成・学生チューターオリエンテーション、医学科3年次離島地域病院実習にて久米島病院実習を担当し、久米島実習学生に対する事前・事後学習を行った。・琉球大学医学部医学科教育連絡主任として、地域医療臨床実習の連絡調整を行った。総合診療センター運営協議会委員、リスクマネジャー連絡会議委員として会議に参加した。共用試験医学系OSCE「医療面接」ステーション副責任者を担当し、OSCE・BPEの運営調整を行った。ハワイ-沖縄医学教育フェローシップ実行委員として、同プログラムの実施調整を行った。
診療	0.30	・総合診療センターにおける外来診療（週5回） ・総合診療センターにおける禁煙外来（週2回） ・救急部診療応援（月1回）	0.35	・総合診療センター外来における外来診療（週5回）、禁煙外来（週2回）を行った。 ・救急部診療応援（月1回）を継続した。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1） 本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	平安名常一	所　属	琉球大学医学部附属病院　放射線部	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.25	①放射線治療およびIVRの適応疾患を理解させる。②放射線治療およびIVRの基礎・応用を指導する。③学生が放射線治療・IVRに参加希望する場合には可能な限り参加型教育おして支援する。	0.25	①講義を通して治療適応疾患をある程度は理解させることができた。②治療の基礎・応用を指導することは実習を通して教えることができた。③実際に臨床に参加希望のものには制限を課した上で、指導することができた。
研究	0.30	①頭頸部を含めた悪性腫瘍に対する動注化学放射線療法の症例を蓄積し、短期・中期成績を報告する。②治療後の再発症例に対する緩和治療の症例を蓄積し、その有効性・安全性の短期・中期成績を報告する。	0.30	①頭頸部を含めた動注化学放射線治療の短期・中期成績を学会にて報告することができた。②同様に、再発症例に対しても報告することができた。
社会貢献	0.05	放射線治療およびIVR根治治療のみだけでなく、それらを用いた緩和治療の情報を講演などにて伝えていく。 日本放射線腫瘍学研究機構の緩和医療の委員として活動していく。	0.05	医療従事者および市民に向けて講演にて緩和治療の情報を伝えることができた。これは継続していきたい。
管理運営	0.10	放射線部の運営のみだけでなく、FIMACにおけるPET運営にも協力して確実な軌道にのせることを目指す。	0.10	放射線部、FIMACの運営にも関わり、その軌道の安定、向上を図ることができた。
診療	0.30	外来診療を円滑に行い、放射線部での収益をより高める方向で検討していく。	0.30	外来診療を円滑に行い、放射線部の収益を高める方向で運営することができた。これは継続していく。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙１）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成３１年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	與儀　彰	所　属	附属病院　放射線部	職　名	講師

領域	業務ウェイト比（予定）	平成３１年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成３１年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.10	卒前教育：ポリクリ、クリクラ時の学生の教育（特に最近発展しているAIの実習を開始する）、M3医科学研究時の学生指導、M2～4に対する放射線医学の講義。 卒後教育：研修医の指導、教育、毎週の神経放射線レクチャー、学会報告・研究の指導、逐次の専門修練医の教育。 その他：進路指導の相談	0.10	卒前教育として、ポリクリ、クリクラ時の学生の教育、M3医科学研究時の学生指導、M2～4に対する放射線医学の講義を担当した。卒後教育としては、研修医の指導、教育、毎週の神経放射線レクチャー、学会報告・研究の指導、逐次の専門修練医の教育を行った。また医局長として、学生に対しては進路や放射線科に対する質問に応対し、研修医の指導、ローテートの調整などを行った。
研究	0.30	H29年度日本学術振興会科研費を取得した研究（小脳歯状回におけるガドリニウム沈着が高次脳機能に及ぼす影響に関する検討）を継続する。SらにH31年度日本学術振興会科研費で申請している、肺気腫と脳機能の相関に関する研究を開始する。第3内科がH26年度日本学術振興会科研費 を取得した研究（沖縄と米国オレゴン州における超高齢者の生活習慣および栄養に関する比較研究（縦断・横断研究））の分担研究者として、研究を継続する。その他、超高精細CTを用いた頭部造影CTアンギオグラフィの画質検討、ノイズ低減処理装置であるsafe CT処理後の画質評価と最適な撮影パラメーター設定、新たな3TMR装置（Philips）を用いた中枢神経系の研究,髄膜腫の硬度や脳浸潤の予測に関する研究、精神科認知症疾患の画像解析も並行して進める。	0.20	H29年度日本学術振興会科研費を取得した研究（小脳歯状回におけるガドリニウム沈着が高次脳機能に及ぼす影響に関する検討）を終了した。肺気腫と脳機能の相関に関する研究に関して、安静時脳機能MRIの撮像条件の設定を開始した。第3内科がH26年度日本学術振興会科研費 を取得した研究（沖縄と米国オレゴン州における超高齢者の生活習慣および栄養に関する比較研究（縦断・横断研究））の分担研究者として、研究を継続sita。超高精細CTを用いた頭部造影CTアンギオグラフィの画質検討に関する2つの研究で、日本神経放射線学会、北米神経放射線研究会で発表した。またノイズ低減処理装置であるsafe CTを用いた急性期脳梗塞診断の検討を開始し、良好な結果を得た。R2年日本神経放射線学会、北米放射炎研究会で発表する予定で、論文も作成中である。またSafeCTを用いた3編の研究を、R2年度日本学術振興会科研費で申請している。3TMR装置（Philips）を用いた中枢神経系の研究,髄膜腫の硬度や脳浸潤の予測に関する研究、精神科認知症疾患の画像解析も並行して進めていて、また新たな手法による非造影MR angiographyを用いた外頚動脈系の描出能の検討も開始した。
社会貢献	0.10	国内外での学会発表（第78回日本医学放射線学会総会、57th ASNRにて発表予定）を行い、研究で得られた知見を発信する。また各種学会誌への寄稿依頼、査読依頼、各種学会からの講演依頼も積極的に引き受ける（第29日本救急放射線研究会にて講演する予定； 13th.ASFNRにてセッション座長を行う予定）。	0.20	国内外での学会発表（第78回日本医学放射線学会総会、57th ASNRにて発表予定）を行い、研究で得られた知見を発信した。複数の英文誌からの査読を行い、Japanease Journal of Radiology（JJR）誌のbest reviewer賞を受賞した。2月に佐賀CT/MRI研究会で、10月に第29回救急放射線研究会で依頼講演を行った。11月には13th.ASFNRにてセッション座長を行った。
管理運営	0.15	医局長、放射線科リスクマネージャーおよび感染対策実務者としての職務を全うする。昨年度に取得した読影管理加算3を継続するための環境整備に努める。CT被曝管理チーム代表者としての職務を全うする。病院移転推進ワーキンググループの情報部門委員として職務を全うする。第39回神経放射線ワークショップ（2019年4月25日～27日）を、大会世話人として主催する。また第5回呼吸機能イメージング研究会サマーセミナー（2019年7月26日、27日）を主催する。	0.30	医局長、放射線科リスクマネージャーとしての職務を全うした。読影管理加算3を継続するための環境整備を主導した。CT被曝管理チーム代表者として、被曝管理を行った。病院移転推進ワーキンググループの情報部門委員としての職務に従事した。患者サービス推進委員としての業務を執り行った。第39回神経放射線ワークショップ（2019年4月25日～27日）を、大会世話人として主催した。
診療	0.35	各種画像診断の読影を行う。脳神経外科、神経内科、精神科とのカンファランスを行う。基幹型認知症機能センターの放射線科代表として、認知症疾患の診療に貢献する。導入された3台目MRI装置の撮像パラメーターの調整を各科と連携して行い、撮像条件の改善、運用の共有に取り組む。	0.20	各種画像診断の読影を行う。脳神経外科、神経内科、精神科とのカンファランスを行う。基幹型認知症機能センターの放射線科代表として、認知症疾患の診療に貢献する。導入された3台目MRI装置の撮像パラメーターの調整を各科と連携して行い、撮像条件の改善、運用の共有に取り組む。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	大城絢子	所　属	医学部附属病院臨床研究教育管理センター	職　名	特命助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.35	臨床研究教育管理学講座の大学院生、年間を通して学内外へ提供している臨床研究教育プログラム受講者の研究推進のための環境マネジメント・大学院生の医学教育研究指導を実施する。専門研修プログラム・地域医療機関の後期臨床研修プログラムとの連携や臨床研究の卒前教育の導入を引き続き検討する。	0.40	臨床研究教育管理学講座の大学院生、年間を通して学内外へ提供している臨床研究教育プログラム受講者の研究推進のための環境マネジメント・大学院生の医学教育研究指導を実施し、専門研修プログラム・地域医療機関の後期臨床研修プログラムとの連携を実施した。また修士課程 大学院生の早期修了に向け研究指導に力を入れた。
研究	0.30	昨年度開発した臨床研究教育モデルの応用といった形で、言語処理分野/法情報学において臨床研究対象の法規の可視化を目指した研究に取り組む。研究の進捗は中間成果として学会や論文で発表し、その内容をもとにした科研費や戦略的基盤経費・その他予算の獲得を目指す。	0.20	言語処理分野/法情報学における研究に取り組み研究の進捗を中間成果として学会で発表し議論した。代表者としての研究費獲得を達成できなかったので、来年度は引き続き積極的に応募を続ける。
社会貢献	0.20	定期的に地域医療機関内医局会でプログラム説明会を実施し、多忙な医療者のクリニカルクエスチョンを、研究を通して医療の質向上に繋げるコーディネートをサポートする。さらに臨床研究教育プログラムへの県内医療機関の参加・育成状況について、定期的にその医療機関の長・沖縄県保健医療部・病院事業局と情報共有し、医師確保に向けた連携を継続する。	0.20	地域医療機関内医局会でのプログラム説明会・臨床研究トレーニングプログラムとしての受講生の受け入れ・そのコーディネートをおこなった。さらにこれまでの取り組みとを沖縄県保健医療部・病院事業局へ報告し、それを応用させた新規事業について話を進めた。
管理運営	0.15	医科学研究をきっかけに臨床研究に興味を示す医学生へ「臨床研究教育プログラム」紹介などの啓蒙活動をおこなう。また医学研究科中間発表会での座長やシラバス管理・整理をおこなう。	0.20	学内での医学研究科 中間発表会では座長として議論に参加した。臨床研究教育プログラム受講者・大学院生を対象としたイベント運営・管理をおこなった。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	池原　由美	所　属	医学部附属病院　臨床研究教育管理センター	職　名	特命助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.15	・臨床研究に関する教育活動として、引き続き月1回程度の勉強会の開催を行い、適応規制を順守した研究実施を推進する ・研究者自身によるセルフモニタリングを学内で推進するため、前年に引き続きモニタリング教育を行う。 ・審査委員会委員の教育の企画を行う	0.15	・毎月の勉強会等センター主催の教育プログラムの開催支援を行ない、実施においては前年度までの教育活動の振り返りを反映し改良を図った。 ・研究者によるセルフモニタリングを推進するため、個別のモニタリング指導を今年度は実施した。 ・審査委員会委員及び研究者の教育のプログラムの刷新を図ると共に、より効果的な教育活動へつなげるためのベースラインデータを収集するためアンケート調査も実施した。
研究	0.40	・AMEDの分担研究者として参加する2事業のプロジェクトマネージャーとして、引き続き円滑な事業実施のための調整、リスク管理、進捗管理等を行う ・科研の分担研究者としての研究を遅滞なく進める	0.50	・医師主導治験や先進医療に向けた臨床研究の支援が増加したが、これらにも対応し、各試験のプロジェクトマネジメントや品質管理等を対象とした研究活動を実施している。 ・科研の分担研究者として、中央も似たリングとオンサイトモニタリングの効果的な品質管理の組み合わせ手法について研究を進めた。
社会貢献	0.10	・製薬会社等の有志による「臨床研究補ポケット資料集」の新年度版作成を行い、最新の規制要件を分かりやすく安価に提供することで社会に貢献する。 ・県内医療機関における多施設共同研究実施環境の整備のため、引き続き県内医療機関の研究支援部門に予備かけ、情報共有、組織支援を継続する	0.10	・これまでも継続してきた臨床研究ポケット資料集の改訂版発行のための、情報収集・編集活動に貢献し、改訂版を出版した。 ・県内の臨床研究支援組織の連携を継続し、会議およびノウハウの共有に勤め、琉球打学の実施する多施設共同研究の分担機関でも研究実施体制の整備に貢献した。
管理運営	0.35	・人を対象とする医学系研究審査委員会および認定臨床研究審査委員会に申請される研究の事前レビューを行い、審査委員会で審議される案件の計画書等に質向上の支援を行い、当日の審議が効率的にポイントを絞った議論ができるよう事前調整を行う ・上記の委員会に陪席し、規制要件に照らして必要に応じ委員会へ進言する。 ・上記委員会のHPの充実により、研究者にの利便性向上や規制順守に貢献する ・センターの品質管理業務の外部受託を推進する	0.25	・臨床研究の適正な実施を推進するため、手順書や規程案の作成等、最新の関連規制に法改正への対応等を実施した。 ・審査委員会事務局業務が円滑に進むよう、また学内での研究管理が適切に行えるよう、関係各所との定期ミーティングを開催し、課題解決や対応の一貫性確保に貢献した。 ・センターの安定運営のため、人員配置、業務計画等を検討し、それに基づく雇用・業務調整を行なった。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。